バージョン 10 リリース 0 2017 年 2 月 28 日

IBM Marketing Operations インストール・ガイド



- 注記 -

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 119 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Operations バージョン 10、リリース 0、モディフィケーション 0 および新しい版で明記 されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示さ れたりする場合があります。

- 原典: Version 10 Release 0 February 28, 2017 IBM Marketing Operations Installation Guide
- 発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 担当: トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2002, 2017.

目次

第1章インストールの概要	1 3 3 4
第2章 Marketing Operations インスト ールの計画 前提条件 Marketing Operations データ・ソース情報ワークシ	7 7 9
IBM Marketing Software 製品のインストール順序 . Marketing Operations および Marketing Platform のインストール先	9 11
第3章 IBM Marketing Operations の データ・ソースの準備1 Marketing Operations システム・テーブル・データ ベースまたはスキーマの作成	13
IBM DB2 データベースのテーブル・スペース. JDBC ドライバーを使用できるように Web アプ リケーション・サーバーを構成する JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバー	13 14
第 4 章 Marketing Operations のインス トール	15 9
GUI モードを使用した Marketing Operations のイ ンストール	20 25
Marketing Operations のサイレント・インストール サンプル応答ファイル インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成す ろ	26 27 28
JAVA 環境変数	29 29 29
 第5章 配直の削に IBM Marketing Operations を構成する	33 33 34 37
第6章概要	39 40 42 42

WebLogic での Marketing Operations の配置 . . 43

第7章 配置後の IBM Marketing
Operations の構成45
インストールの検証
asm_admin ユーザーに Marketing Operations への
アクセス権限を付与する
マークアップ・オプションの構成 46
E メール設定の構成
Campaign との統合の構成
統合システム用の DB2 データベースの構成 49
クラウド上の Workflow Service との統合49
Workflow Service との統合の構成 50
セキュリティー強化のための追加構成 51
X-Powered-By フラグの無効化
制限された Cookie パスの構成
第8章 レポートのインストール 53
レポートの次のステップ 53
第 9 章 クラスターでの IBM Marketing
Operations のインストール
WebSphere のガイドライン
WebLogic のガイドライン
共有フォルダー・プロパティーの構成 61
ehcache の構成
第 10 草 Marketing Operations のアク
インストール 65
笠 44 辛 eandirTeal
弗 II 阜 conligiooi
策 12 音 IBM Marketing Operations 構
$d^{2} = 10 \text{ m}$ marketing operations in d^{2}
$M_{1} = \dots = 1$
Marketing Operations
Marketing Operations navigation
Marketing Operations ハーション情報
Marketing Operations umoConfiguration 76
Marketing Operations umoConfiguration
Approvals
tomplatos
Marketing Operations umoConfiguration
attachmentFeldere
Marketing Operations umoConfiguration
file Inload
Marketing Operations umoConfiguration
Email
Marketing Operations umoConfiguration
Marketing Operations umoConfiguration markup

Marketing Operations umoConfiguration grid 90
Marketing Operations umoConfiguration
workflow
Marketing Operation umoConfiguration
integrationServices
Marketing Operation umoConfiguration
campaignIntegration
Marketing Operation umoConfiguration
reports
Marketing Operation umoConfiguration
invoiceRollup
Marketing Operation umoConfiguration
database
Marketing Operation umoConfiguration
listingPages
Marketing Operation umoConfiguration
objectCodeLocking
Marketing Operation umoConfiguration
thumbnailGeneration
Marketing Operation umoConfiguration
Scheduler intraDay
Marketing Operation umoConfiguration
Scheduler daily
Marketing Operation umoConfiguration
Notifications
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications Email

Marketing Operations umoConfiguration
Notifications project
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications projectRequest
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications program
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications marketingObject
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications approval
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications asset
Marketing Operations umoConfiguration
Notifications invoice
Marketing Operations umoConfiguration
WorkflowService
IBM 技術サポートへのお問い合わせの前
に117
特記事項
商標
プライバシー・ポリシーおよびご利用条件に関する
考慮事項

第1章 インストールの概要

Marketing Operations のインストール、構成、および配置を行ったら、Marketing Operations のインストールは完了です。 Marketing Operations インストール・ガ イドには、Marketing Operations のインストール、構成および配置に関する詳細情 報が記載されています。

『インストール・ロードマップ』セクションを利用すると、「Marketing Operations インストール・ガイド」の使用について幅広く理解することができま す。

インストール・ロードマップ

インストール・ロードマップを使用して、Marketing Operations のインストールに 必要な情報を素早く見つけることができます。

表 1 を使用して、Marketing Operations をインストールするために実行する必要 のあるタスクをスキャンできます。次の表の「説明」列には、Marketing Operations をインストールするためのタスクについて説明したトピックへのリンク が示されています。

表 1. Marketing Operations インストール・ロードマップ

トピック	説明		
『第 1 章 インストールの概要』	このトピックには、以下の情報が含まれています。		
	• 3 ページの『インストーラーの機能』		
	 3 ページの『インストールのモード』. 		
	 4 ページの『Marketing Operations の資料とヘルプ』. 		
7 ページの『第 2 章 Marketing Operations インス	このトピックには、以下の情報が含まれています。		
トールの計画』	• 7 ページの『前提条件』		
	 9 ページの『Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート』. 		
	 9 ページの『IBM Marketing Software 製品のインスト ール順序』 		
13 ページの『第 3 章 IBM Marketing Operations の	このトピックには、以下の情報が含まれています。		
データ・ソースの準備』	 13 ページの『Marketing Operations システム・テーブ ル・データベースまたはスキーマの作成』 		
	 14 ページの『JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成する』 		
	• 15 ページの『JDBC 接続を Web アプリケーション・ サーバーに作成する』		

表	1.	Marketing	Operations	1	ンス	トール・	· ロー	ドマ	ップ	(続き)
---	----	-----------	------------	---	----	------	------	----	----	------

トピック	説明		
19 ページの『第 4 章 Marketing Operations のイン	• 20 ページの『GUI モードを使用した Marketing		
ストール』	Operations のインストール』.		
	• 25 ページの『コンソール・モードを使用した		
	Marketing Operations のインストール』		
	 26 ページの『Marketing Operations のサイレント・インストール』 		
	 29 ページの『インストールのプロンプト・ウィンド ウ』 		
	 28 ページの『インストーラーの実行後に EAR ファイ ルを作成する』 		
	 29 ページの『IAVA 環境変数』 		
	 29 ページの『インストールのプロンプト・ウィンド ウ』 		
33 ページの『第 5 章 配置の前に IBM Marketing	このトピックには、以下の情報が含まれています。		
Operations を構成する』	• 33 ページの『Marketing Operations の手動登録』		
	• 34 ページの『Marketing Operations システム・テーブ		
	ルの作成およびデータ設定』		
	 37 ページの『環境変数の設定』 		
39 ページの『第 6 章 概要』	このトピックには、以下の情報が含まれています。		
	 39 ページの『Websphere での Marketing Operations の配置』 		
	 43 ページの『WebLogic での Marketing Operations の配置』 		
45 ページの『第 7 章 配置後の IBM Marketing	このトピックには、以下の情報が含まれています。		
Operations の構成』	• 46 ページの『asm_admin ユーザーに Marketing		
	Operations へのアクセス権限を付与する』		
	• 46 ページの『マークアップ・オプションの構成』		
	• 47 ページの『E メール設定の構成』		
	 48 ページの『Campaign との統合の構成』 		
	• 45 ページの『インストールの検証』		
53 ページの『第 8 章 レポートのインストール』	このトピックには、以下の情報が含まれています。		
	・ 53 ページの『レポートの次のステップ』		
55 ページの『第 9 章 クラスターでの IBM	このトピックには、以下の情報が含まれています。		
Marketing Operations のインストール』	・ 55 ページの『WebSphere のガイドライン』		
	・ 58 ページの『WebLogic のガイドライン』		
	• 61 ページの『共有フォルダー・プロパティーの構成』		
	• 61 ページの『ehcache の構成』		
65 ページの『第 10 章 Marketing Operations のア ンインストール』	このトピックには、Marketing Operations のアンインスト ール方法についての情報が示されています。		
67 ページの『第 11 章 configTool』	Marketing Operations の構成ツール・ユーティリティーに ついて詳しく説明しています。		

インストーラーの機能

どの IBM[®] Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードする場 合も、スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する必要があり ます。例えば、Marketing Operations をインストールするには、IBM Marketing Software スイート・インストーラーと IBM Marketing Operations インストーラ ーを使用する必要があります。

IBM Marketing Software スイート・インストーラーと製品インストーラーを使用 するには、その前に、以下のガイドラインに従っていることを確認してください。

- スイート・インストーラーおよび製品インストーラーは、製品のインストール先のコンピューターの同じディレクトリーにある必要があります。ディレクトリー内にマスター・インストーラーと共に複数のバージョンの製品インストーラーがある場合、マスター・インストーラーは常に製品の最新バージョンを、インストール・ウィザードの IBM Marketing Software 製品画面に表示します。
- IBM Marketing Software 製品のインストール直後にパッチをインストールする ことを予定している場合、スイート・インストーラーや製品インストーラーと同 じディレクトリー内にパッチ・インストーラーが入っていることを確認してくだ さい。
- IBM Marketing Software インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは /IBM/IMS (UNIX) または C:¥IBM¥IMS (Windows) です。ただし、このディレク トリーはインストール時に変更できます。

インストールのモード

IBM Marketing Software スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソー ル・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモード で実行できます。 Marketing Operations をインストールする際は要件に見合った モードを選択してください。

アップグレードの場合、インストーラーを使用して、初期インストール時に行うタ スクと同じタスクを多数行います。

GUI モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して Marketing Operations を インストールするには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを使用します。

コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して Marketing Operations をインストール するには、コンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字 エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。 ANSI な どその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情 報が読み取れなくなります。 サイレント・モード

Marketing Operations を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人 モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使 用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力を必要としません。

注: サイレント・モードは、クラスター Web アプリケーションまたはクラスター・ リスナー環境のアップグレード・インストールではサポートされていません。

Marketing Operations の資料とヘルプ

以下の表では、Marketing Operations のインストールに関する様々なタスクについ て説明しています。

「資料」 列には、タスクに関して詳しい情報が記載されている資料の名前が含まれています。

表 2. 起動して稼働状態にする

タスク	資料
新機能、既知の問題、および回避策についてのリストを表	IBM Marketing Operations リリース・ノート
示	
Marketing Operations のインストールまたはアップグレ	以下のいずれかのガイド:
ード、および Marketing Operations Web アプリケーシ	• IBM Marketing Operations インストール・ガイド
= ンの配直 	• IBM Marketing Operations アップグレード・ガイド

以下の表には、Marketing Operations における管理タスクが記述されています。 「資料」 列には、タスクに関して詳しい情報が記載されている資料の名前が含まれ ています。

表 3. Marketing Operations の構成および使用

タ	スク	資料
•	ユーザー用にシステムをセットアップおよび構成する	IBM Marketing Operations 管理者ガイド
•	セキュリティー設定の調整	
•	テーブルのマッピング、およびオファー・テンプレー トとカスタム属性の定義	
•	ユーティリティーの実行およびメンテナンスの実行	
•	マーケティング・キャンペーンの作成と配置	IBM Marketing Operations ユーザー・ガイド
•	キャンペーン結果の分析	

以下の表には、Marketing Operations のオンライン・ヘルプおよび PDF の取得に 関する情報が含まれています。「説明」列には、オンライン・ヘルプの開き方およ び Marketing Operations の文書へのアクセス方法が説明されています。

表 4. ヘルプの入手

タスク	説明
オンライン・ヘルプを開く	 「ヘルプ」>「このページのヘルプ」を選択して、コ ンテキスト・ヘルプ・トピックを開きます。
	 ヘルプ・ウィンドウ内の「ナビゲーションの表示 (Show Navigation)」アイコンをクリックすると、ヘ ルプ全体が表示されます。
	オンラインのコンテキスト・ヘルプを表示するには、Web アクセスが必要です。オフライン資料として IBM Knowledge Center をローカルで利用する方法、および インストールする方法について詳しくは、IBM サポート にお問い合わせください。
PDF の取得	 以下のいずれかの方法に従います: 「ヘルプ」>「製品資料」を選択すると、Marketing Operations PDF を利用できます。 利用可能なすべての資料へアクセスするには、「ヘルプ」>「IBM Marketing Software Suite のすべての 資料」を選択します。
サポートを受ける	http://www.ibm.com/support ヘアクセスし、 「 Support & downloads 」をクリックして IBM サポー ト・ポータルヘアクセスします。

第2章 Marketing Operations インストールの計画

Marketing Operations のインストールを計画するとき、システムを正しくセットア ップしたこと、および障害がある場合にはそれに対処するように環境を構成したこ とを確認してください。

前提条件

IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前 提条件を満たしていることを確認する必要があります。

システム要件

システム要件について詳しくは、「Recommended Software Environments and Minimum System Requirements」ガイドを参照してください。

Opportunity Detect を DB2 データベースに接続するには、クライアント・マシン 上の DB2 インストール済み環境の /home/db2inst1/include ディレクトリーにイ ンストール・ヘッダー・ファイルが含まれている必要があります。インストール済 み環境にヘッダー・ファイルを組み込むには、DB2 のインストール時に「カスタ ム・インストール」オプションを選択し、「基本アプリケーション開発ツール」機 能を選択します。

DB2 要件

Opportunity Detect を DB2 データベースに接続するには、クライアント・マシン 上の DB2 インストール済み環境の home/db2inst1/include ディレクトリーにイン ストール・ヘッダーが含まれている必要があります。インストール済み環境にヘッ ダー・ファイルを組み込むには、DB2 のインストール時に「カスタム・インストー ル」オプションを選択し、「基本アプリケーション開発ツール」機能を選択しま す。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM Marketing Software 製品は同じネットワ ーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スク リプティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラ ウザー制限に準拠するためです。

JVM 要件

スイート内の IBM Marketing Software アプリケーションは、専用の Java[™] 仮想 マシン (JVM) に配置しなければなりません。IBM Marketing Software 製品は、 Web アプリケーション・サーバーによって使用される JVM をカスタマイズしま す。JVM に関連するエラーが発生する場合、IBM Marketing Software 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere[®]ドメインを作成する必要があります。

知識要件

IBM Marketing Software 製品をインストールするには、製品をインストールする 環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、 データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれま す。

インターネット・ブラウザー設定

ご使用のインターネット・ブラウザーが、以下の設定に準拠していることを確認し てください。

- ブラウザーで Web ページをキャッシュしない。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを 確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理アクセス権限
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM Marketing Software コンポーネ ントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連 ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアク セス権限
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限
- インストール・ディレクトリーやバックアップ・ディレクトリー (アップグレードを行う場合)など、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限
- インストーラーを実行するための適切な読み取り、書き込み、実行権限

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認して ください。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、rwxr-xr-x) が必要です。

JAVA_HOME 環境変数

IBM Marketing Software 製品をインストールするコンピューターに JAVA_HOME 環 境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定 されていることを確認してください。システム要件について詳しくは、「IBM Marketing SoftwareRecommended Software Environments and Minimum System Requirements」ガイドを参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が正しくない JRE を指している場合、IBM Marketing Software インストーラーを実行する前に、その JAVA_HOME 変数をクリアする必要 があります。

以下のいずれかの方法により、JAVA_HOME 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、**set JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力 して、**Enter** キーを押します。
- UNIX: 端末で、export JAVA_HOME= (空のままにする) と入力して、Enter キー を押します。

IBM Marketing Software インストーラーは、IBM Marketing Software インスト ール環境の最上位ディレクトリーに JRE をインストールします。個々の IBM Marketing Software アプリケーションのインストーラーは、JRE をインストールし ません。その代わりに、IBM Marketing Software インストーラーによってインス トールされた JRE の場所を指定します。すべてのインストールが完了した後に環境 変数を再設定することができます。

サポートされる JRE について詳しくは、「IBM Marketing Software Recommended Software Environments and Minimum System Requirements」ガイドを参照してください。

Marketing Platform の要件

IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードする前に、 Marketing Platform をインストールまたはアップグレードする必要があります。一 緒に機能する製品のグループごとに、Marketing Platform を 1 回だけインストー ルまたはアップグレードする必要があります。各製品インストーラーは、必要な製 品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品またはバージョ ンが Marketing Platform に登録されていない場合、インストールを続行する前 に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードすることを求めるメ ッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページにいずれかのプロパティーを設 定するには、その前に、 Marketing Platform がデプロイされ、稼働していなけれ ばなりません。

Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート

Marketing Operations のインストールに必要な Marketing Operations データベー スおよび他の IBM Marketing Software 製品についての情報を集めるには、 Marketing Operations インストール用ワークシートを使用します。

表 5. データ・ソース情報ワークシート

項目	值
データ・ソース・タイプ	
データ・ソース名	
データ・ソースのアカウント・ユーザー名	
データ・ソースのアカウント・パスワード	
JNDI 名	plands
JDBC ドライバーへのパス	

IBM Marketing Software 製品のインストール順序

複数の IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードすると きは、それらを特定の順序でインストールする必要があります。 次の表には、複数の IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグ レードするときに従う必要のある順序についての情報が示されています。

表 6. IBM Marketing Software 製品のインストールまたはアップグレードの順序

製品または組み合わせ:	インストールまたはアップグレードの順序:	
Campaign (eMessage 付きまたはな	1. Marketing Platform	
し)	2. Campaign	
	注: eMessage は、Campaign をインストールする際に自動的にインストール されます。ただし、eMessage が Campaign インストール・プロセス中に構 成されたり有効にされたりすることはありません。	
Interact	1. Marketing Platform	
	2. Campaign	
	3. Interact 設計時環境	
	4. Interact ランタイム環境	
	5. Interact Extreme Scale サーバー	
	Interact 設計時環境だけをインストールまたはアップグレードする場合、 Interact 設計時環境を以下の順序でインストールまたはアップグレードしま す。	
	1. Marketing Platform	
	2. Campaign	
	3. Interact 設計時環境	
	Interact ランタイム環境だけをインストールまたはアップグレードする場合、 Interact ランタイム環境を以下の順序でインストールまたはアップグレードします。	
	1. Marketing Platform	
	2. Interact ランタイム環境	
	Interact Extreme Scale サーバーだけをインストールする場合、 Interact Extreme Scale サーバーを以下の順序でインストールします。	
	1. Marketing Platform	
	2. Interact ランタイム環境	
	3. Interact Extreme Scale サーバー	
Marketing Operations	1. Marketing Platform	
	2. Marketing Operations	
	注: Marketing Operations を Campaign に統合する場合、Campaign もイン ストールする必要があります。それら 2 つの製品は任意の順序でインストー ルできます。	
Distributed Marketing	1. Marketing Platform	
	2. Campaign	
	3. Distributed Marketing	

表 6. IBM Marketing Software 製品のインストールまたはアップグレードの順序 (続き)

製品または組み合わせ:	インストールまたはアップグレードの順序:				
Contact Optimization	I. Marketing Platform				
	2. Campaign				
	3. Contact Optimization				
Opportunity Detect	1. Marketing Platform				
	2. Opportunity Detect				
Interact Advanced Patterns	1. Marketing Platform				
	2. Campaign				
	3. Interact				
	4. Interact Advanced Patterns				
IBM SPSS [®] Modeler Advantage	1. IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management				
Edition	Edition				

Marketing Operations および Marketing Platform のインストール先

以下の図は、Marketing Operations をインストールする場所についての概要を簡潔 に示しています。これは、最も基本的な機能インストールです。

セキュリティー上およびパフォーマンス上の要件を満たすため、より複雑な、まったく異なるインストールが必要になることがあります。



Marketing Operations: 最大限のパフォーマンスを実現するため、Marketing Operations は、専用のマシン (他の IBM Marketing Software 製品がインストール されていないマシン)、または Marketing Platform とのみ共有するマシンにインス トールしてください。

Marketing Operations システム・テーブルは別のマシンに置く必要があります。

Marketing Operations レポート・パッケージ: Marketing Operations のレポート・パッケージには IBM Cognos[®] パッケージのみが含まれています (他のアプリケーションには構成すべきレポート・スキーマもありますが、Marketing Operations にはありません)。レポート・パッケージは IBM Cognos システムにインストールしてください。

Marketing Platform: Marketing Platform アプリケーションには、IBM 共通のナ ビゲーション機能、レポート機能、ユーザー管理機能、セキュリティー機能、スケ ジューリング機能、および構成管理機能が含まれています。IBM Marketing Software 環境ごとに、Marketing Platform を 1 回インストールして配置する必要 があります。

第3章 IBM Marketing Operations のデータ・ソースの準備

Marketing Operations ワークシートを使用して、Marketing Operations をインス トールする際に必要な情報を入力できます。

この章の終わりにある 9 ページの『Marketing Operations データ・ソース情報ワ ークシート』を印刷してください。そして、この章に記載されているそれぞれの作 業が完了するたびに、チェックリストに情報を記入してください。この情報を書き 留めておくと、後でインストール・プロセスで IBM インストーラーを実行すると きにデータベース接続情報を簡単に入力できるようになります。

Marketing Operations システム・テーブル・データベースまたはスキーマの作成

データベース管理者の支援を受けながら、Marketing Operations システム・テーブ ル・データベースまたはスキーマを作成します。データベースを作成した後に、将 来の参照用にデータ・ソース情報ワークシートを完成させます。

以下の手順を実行して、Marketing Operations システム・テーブル・データベース またはスキーマを作成します。

- 1. データベース管理者と共に作業して、Marketing Operations に必要なデータベースを作成します。
- 2. 後のインストール処理で自身がシステム・ユーザーに指定するアカウントを、デ ータベース管理者に作成してもらいます。

このアカウントには、必要に応じて、表とビューの両方に関する CREATE、SELECT、INSERT、UPDATE、DELETE、および DROP 権限が必 要です。さらに、以下も必要です。

- データベースでは UTF-8 エンコード方式を使用する必要があります。
- SQL サーバーを使用している場合は、TCP/IP が有効になっていることを確認してください。
- DB2[®] を使用している場合は、テーブル・スペースのバッファー・プールが 少なくとも 32K あることを確認してください。
- 3. 9 ページの『Marketing Operations データ・ソース情報ワークシート』を印 刷し、必要事項を記入します。情報は、後にインストール処理で使用します。

IBM DB2 データベースのテーブル・スペース

DB2 データベースは、データベース管理スペース (DMS) テーブル・スペースを管理します。テーブル・スペースは、DB2 表が保管されるデータ・セットが含まれる保管場所です。 Marketing Operations をインストールする前に、IBM DB2 データベース用のテーブル・スペースを作成してください。

アプリケーション・データ用に以下の種類のテーブル・スペースを指定できます。

- オンライン・トランザクション処理 (OLTP) データのテーブル・スペース。この テーブル・スペースを使用して、アプリケーションからのトランザクション・デ ータを保管します。
- OLTP インデックスのテーブル・スペース。 OLTP データ・テーブルへのアク セス用に作成されたインデックスを保管するには、このテーブル・スペースを使 用します。
- Discussion Support System (DSS) データのテーブル・スペース。 DSS スキー マ内にロードされる OLTP データを保管するには、このテーブル・スペースを 使用します。 DSS スキーマは、アプリケーションのアクティビティーのレポー トが生成しやすくなるように、OLTP からのデータを編成します。
- DSS インデックスのテーブル・スペース。 DSS データ・テーブルへのアクセス 用に作成されたインデックスを保管するには、このテーブル・スペースを使用し ます。

テーブル・スペースの名前、およびデータベースの作成場所であるサーバーの名前 を書き留めておきます。 Marketing Operations をインストールする前に、これら のテーブル・スペースが存在する必要があります。 OLTP データおよび DSS デー タのテーブル・スペースにそれぞれ少なくとも 100 MB のスペースを、さらに OLTP インデックスおよび DSS インデックスのテーブル・スペースにそれぞれ少 なくとも 50 MB のスペースを割り振る必要があります。

4 つすべてのテーブル・スペースを保守する必要がない場合は、インストール・プ ログラムで複数のフィールドに同じテーブル・スペースを指定できます。例えば、 OLTP データ・テーブルと OLTP インデックス・テーブルに同じテーブル・スペー スを指定したり、4 種類のテーブルすべてに単一のテーブル・スペースを指定した りできます。テーブル・スペースに書き込まれるすべてのテーブル用に、十分なス ペースを割り振ってください。

加えて、少なくとも 10 MB の一時 (TMP) テーブル・スペースが必要です。

Marketing Operations のインストール時に指定されるデータベース・ユーザーは、 これらのテーブル・スペースに関連付けられているか、テーブル・スペースを管理 する権限を持っている必要があります。 Leads アプリケーションは、これらのテー ブル・スペース内にスキーマを作成して初期データを書き込むことができる必要が あります。

JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・ サーバーを構成する

Marketing Operations を配置する予定の Web アプリケーション・サーバーには、 JDBC 接続をサポートするための適切な JAR ファイルがなければなりません。この JAR ファイルによって、Web アプリケーションはシステム・テーブルに接続でき ます。JAR ファイルの場所が Web アプリケーション・サーバーのクラスパスに含 まれている必要があります。

WebSphere を使用していて、この製品をインストールしたときにインストーラーで データ・ソースを作成した場合は、この手順に含まれているクラスパスの設定に関 するステップを省略できます。インストール時のデータ・ソースの自動作成を有効 にするには、「データ・ソースの作成 (Datasource Creation)」パネルで、 「Marketing Operations データ・ソースの作成 (Create Marketing Operations Datasource)」チェック・ボックスを選択し、WebSphere プロファイルについての 情報を指定します。インストーラーでデータ・ソースを作成しない場合は、以下の 手順をすべて実行します。

WebLogic を使用している場合は、以下の手順をすべて実行する必要があります。

注: Marketing Platform がインストールされている同じマシンに Marketing Operations をインストールする場合、このタスクは既に完了しています。『JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する』に進みます。

 使用する予定であるデータベースの最新のタイプ 4 JDBC ドライバー、および 必要な関連ファイル (例えば、Oracle ではいくつかの関連ファイルが必要とな る)を入手します。詳しくは、「推奨されるソフトウェア環境および最小システ ム要件」ガイドを参照してください。

常に、ベンダーが提供する最新のタイプ 4 ドライバーを使用してください。

- Marketing Operations のインストール先のマシンにドライバーが存在しない場合は、ドライバーを入手し、それを Marketing Operations マシンの任意の場所にコピーします。
- データベース・クライアントがインストールされているマシンからドライバ ーを入手する場合は、そのバージョンがデータベース・ベンダーによって提 供された最新のものであることを確認してください。サポートされる JDBC ドライバーのリストについては、IBM コンサルタントに確認してください。
- 2. 以下のように、Marketing Operations を配置する予定の Web アプリケーショ ン・サーバーの CLASSPATH に、ドライバーへの絶対パスを組み込みます。
 - サポートされるすべてのバージョンの WebLogic で、 DOMAIN_DIR¥bin¥setDomainEnv.cmd の CLASSPATH 変数に jar ファイルを追加します。 Web アプリケーション・サーバーが正しいドライバーを使用するようにするためには、ご使用のドライバーが CLASSPATH 値の最初のエントリーでなければなりません。例えば、SQL Server を使用する場合は、パスを以下のように設定します。

set CLASSPATH=c:#SQLDRIVER#sqljdbc.jar;%PRE_CLASSPATH%;
%WEBLOGIC_CLASSPATH%; %POST_CLASSPATH%;%WLP_POST_CLASSPATH%;

 サポートされるすべてのバージョンの WebSphere について、管理コンソー ルで CLASSPATH を設定します。

JDBC 接続を Web アプリケーション・サーバーに作成する

Marketing Operations Web アプリケーションは、JDBC 接続を使用して、システム・テーブル・データベースおよび IBM Marketing Platform システム・テーブル・データベースと通信します。

この JDBC 接続は、Marketing Operations を配置する予定の Web アプリケーション・サーバーで作成する必要があります。

Marketing Operations のインストール時にインストーラーでこのデータ・ソースを 作成することができます。インストール時のデータ・ソースの自動作成を有効にす るには、「データ・ソースの作成 (Datasource Creation)」パネルで、「Marketing **Operations** データ・ソースの作成 (Create Marketing Operations Datasource)」 チェック・ボックスを選択し、アプリケーション・サーバーについての情報を指定 します。

- インストーラーは、JNDI 名に plands を使用してデータ・ソースを作成します。
- WebLogic を使用している場合、インストーラーでデータ・ソースを作成できる ようにした場合でも、JDBC ドライバーをクラスパスに手動で追加する必要があ ることに注意してください。WebSphere の場合は、インストーラーがこの作業 を自動的に行います。

データ・ソースを手動で作成する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

WebSphere では、このプロセスの際に、ご使用のデータベース・ドライバーのクラ スパスを設定してください。

重要: Marketing Operations システム・テーブルを保管するデータベースへの接 続に対しては、Java Naming and Directory Interface (JNDI) 名として plands を 使用する必要があります。この値は、必須の JNDI 名です。

重要: Marketing Platform システム・テーブルを保管するデータベースへの接続に 対しては、JNDI 名として UnicaPlatformDS を使用する必要があります。これは、 必須の JNDI 名です。Marketing Operations と Marketing Platform を同じ JVM に配置する場合は、この接続が既に存在している必要があります。

Marketing Operations で多数の同時ユーザーが予想される場合は、Web サーバー の接続数を増やさなければならない可能性があります。最良の結果を得るために は、50 個の接続を許可するように Web サーバーを設定します。

JDBC 接続を作成するための情報

特定の値が示されない場合は、JDBC 接続の作成時にデフォルト値を使用します。 詳しくは、アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

注: データベースのデフォルト・ポート設定を使用しない場合は、正しい値に必ず変 更してください。

WebLogic

アプリケーション・サーバーが WebLogic である場合は、以下の値を使用します。

SQLServer

- データベース・ドライバー: Microsoft MS SQL Server ドライバー (タイプ 4) バージョン: 2012、2012 SP1 および SP3、2014、2014 SP1
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
- ドライバー URL: jdbc:sqlserver://<your_db_host>[¥¥
 <named_instance>]:<your_db_port>;databaseName=<your_db_name>
- プロパティー: user=<your_db_user_name> を追加

Oracle

- ドライバー:その他
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>

示されている形式を使ってドライバー URL を入力してください。 IBM Marketing Software アプリケーションでは、JDBC 接続に対する Oracle の RAC (Real Application Cluster) 形式の使用は許可されていません。

• プロパティー: user=<your_db_user_name> を追加

DB2

- ドライバー:その他
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ドライバー URL: jdbc:db2://<your_db_host>:<your_db_port>/<your_db_name>
- プロパティー: user=<your_db_user_name> を追加

WebSphere

アプリケーション・サーバーが WebSphere である場合は、以下の値を使用します。

SQLServer

- ドライバー:該当なし
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource
- ドライバー URL: 該当なし

「データベース・タイプ」フィールドで、「ユーザー定義 (User-defined)」を選択 します。

JDBC プロバイダーとデータ・ソースを作成した後、データ・ソースの「カスタム・プロパティー」に移動して、以下のようにプロパティーを追加および変更します。

- serverName=<your_SQL_server_name>
- portNumber =<SQL_Server_Port_Number>
- databaseName=<your_database_name>

以下のカスタム・プロパティーを追加します。

名前: webSphereDefaultIsolationLevel

値: 1

データ型: 整数

Oracle

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL: jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>

示されている形式を使ってドライバー URL を入力してください。 IBM Marketing Software アプリケーションでは、JDBC 接続に対する Oracle の RAC (Real Application Cluster) 形式の使用は許可されていません。

DB2

- ドライバー: JCC ドライバー・プロバイダー
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ・ ドライバー URL: jdbc:db2://<your_db_host>:<your_db_port>/<your_db_name>

以下のカスタム・プロパティーを追加します。

名前: webSphereDefaultIsolationLevel

値: 2

データ型: 整数

第4章 Marketing Operations のインストール

Marketing Operations のインストールを開始するには、IBM Marketing Software インストーラーを実行する必要があります。 IBM Marketing Software インストー ラーにより、インストール・プロセス中に Marketing Operations インストーラー が開始されます。IBM Marketing Software インストーラーと製品インストーラー が同じ場所に保存されていることを確認してください。

IBM Marketing Software スイート・インストーラーを実行するたびに、まず Marketing Platform システム・テーブルに関するデータベース接続情報を入力する 必要があります。Marketing Operations インストーラーが開始するときに、 Marketing Operations に関する必要な情報を入力する必要があります。

Marketing Operations をインストールした後で、製品の EAR ファイルを作成し、 製品のレポート・パッケージをインストールすることができます。EAR ファイルの 作成およびレポート・パッケージのインストールは、必須のアクションではありま せん。

重要: Marketing Operations をインストールする前に、Marketing Operations を インストールするコンピューター上の使用可能な一時スペースが Marketing Operations インストーラーのサイズの 3 倍より大きいことを確認してください。

インストール・ファイル

インストール・ファイルは、製品のバージョンおよびその製品をインストールする 必要のあるオペレーティング・システム (UNIX を除く) に従って命名されます。 UNIX の場合、X Window System モード用とコンソール・モード用の異なるイン ストール・ファイルが存在します。

次の表に、製品のバージョンとオペレーティング・システムに従って命名されたイ ンストール・ファイルの例を示しています。

オペレーティング・システム	インストール・ファイル			
Windows: GUI およびコンソール・モード	Product_N.N.N.N_win64.exe。ここで、Product はご使用 の製品の名前、N.N.N.N はその製品のバージョン番号で あり、ファイルのインストール先オペレーティング・シス テムは Windows 64 ビット版でなければなりません。			
UNIX: X Window System モード	Product_N.N.N.N_linux64.bin。ここで、Product はご使用の製品の名前、N.N.N.N はその製品のバージョン番号です。			
UNIX: コンソール・モード	Product_N.N.N.N.bin。ここで、Product はご使用の製品 の名前、N.N.N.N はその製品のバージョン番号です。す べての UNIX オペレーティング・システムで、このファ イルをインストールに使用できます。			

表 7. インストール・ファイル

GUI モードを使用した Marketing Operations のインストール

Windows の場合、GUI モードを使用して Marketing Operations をインストール します。 UNIX の場合、X Window System モードを使用して Marketing Operations をインストールします。

重要: GUI モードを使用して Marketing Operations をインストールする前に、 Marketing Operations をインストールするコンピューターの使用可能な一時スペー スが、 Marketing Operations インストーラーのサイズの 3 倍よりも大きいことを 確認してください。

IBM Marketing Software インストーラーと Marketing Operations インストーラ ーが、Marketing Operations をインストールするコンピューター上の同じディレク トリーに入っていることを確認してください。

GUI モード (Windows の場合) または X Window System モード (UNIX の場合) を使用して Marketing Operations をインストールするには、以下のようにします。

- 1. IBM Marketing Software インストーラーを保存したフォルダーに移動し、その インストーラーをダブルクリックして開始します。
- 2. 最初の画面で 「OK」をクリックして、「概要」ウィンドウを表示します。
- インストーラーの指示に従って、「次へ」をクリックします。 次の表に示され た情報を使用して、IBM Marketing Software インストーラーの各ウィンドウで 適切な操作を行います。

表 8. IBM Marketing Software インストーラー GUI

ウィンドウ	説明
概要	これは IBM Marketing Software スイートのインストーラーの最初のウィンド ウです。このウィンドウから、Marketing Operations のインストール・ガイド およびアップグレード・ガイドを開くことができます。
	「次へ」をクリックして、次のワインドワに移動します。
応答ファイルの宛先	製品の応答ファイルを生成する場合には、「応答ファイルを生成する」チェッ ク・ボックスをクリックします。応答ファイルには、製品のインストールに必要 な情報が保管されています。応答ファイルは製品の自動インストールに使用でき ます。
	「選択」をクリックして、応答ファイルを格納する場所を参照できます。
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
IBM Marketing Software 製品	「インストール・セット」リストで、「カスタム」を選択してインストールする 製品を選択します。
	「インストール・セット」領域には、インストール・ファイルがコンピューター の同じディレクトリーにあるすべての製品が表示されます。
	「説明」フィールドには、「インストール・セット」領域で選択した製品につい ての説明が表示されます。
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。

表 8. IBM Marketing Software インストーラー GUI (続き)

ウィンドウ	説明				
インストール・ディレクトリー	「選択」をクリックして、 IBM Marketing Software をインストールするディ レクトリーを参照します。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
アプリケーション・サーバーの選	インストールのために以下のいずれかのアプリケーション・サーバーを選択しま				
択	す。				
	• IBM WebSphere				
	Oracle WebLogic				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
Platform データベースのタイプ	適切な Marketing Platform データベースのタイプを選択します。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
Platform データベース接続	データベースに関する以下の情報を入力します。				
	 データベース・ホスト名 				
	• データベースのポート				
	• データベース名またはシステム ID (SID)				
	• データベース・ユーザー名				
	• データベースのパスワード				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
	重要: IBM Marketing Software 製品が分散環境にインストールされている場				
	合、スイートに属するすべてのアプリケーションのナビゲーション URL では				
	IP アドレスではなく、マシン名を使用する必要があります。また、クラスター				
	環境において、デプロイメントにデフォルトのポート 80 または 443 とは異な				
	るポートを使用する場合は、このプロパティーの値にポート番号を使用しないで				
Platform アータベース接続 (続き)	JDBC 接続を検討して確認します。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
プリインストール・サマリー	インストール・プロセスで追加した値を検討して確認します。				
	「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。				
	Marketing Platform インストーラーが開きます。Marketing Platform の以前の				
	インスタンスが存在する場合は、そのインスタンスが現在のバージョンにアップ				
	グレードされます。Marketing Platform の以前のインスタンスが存在しない場				
	合は、Marketing Platform がインストールされます。				

- 4. Marketing Platform インストーラーの指示に従って、Marketing Platform をイ ンストールまたはアップグレードします。詳しくは、「*IBM Marketing Platform* インストール・ガイド」を参照してください。
- 5. 「インストール完了」ウィンドウで、「完了」をクリックします。 Marketing Platform のインストールが完了し、Marketing Operations インストーラーが開きます。

 次の表に示された情報を使用して、Marketing Operations インストーラーをナ ビゲートします。「Platform データベース接続」ウィンドウで、必要な情報を すべて入力し、「次へ」をクリックして Marketing Operations インストーラ ーを開始します。

表 9. IBM Marketing Operations インストーラーの GUI

ウィンドウ	説明				
概要	これは Marketing Operations のインストーラーの最初のウィンドウです。この				
	ウィンドウから、Marketing Operations のインストール・ガイドおよびアップ				
	グレード・ガイドを開くことができます。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
ソフトウェアのご使用条件	使用条件を注意深くお読みください。「印刷」を使用すると、この使用条件を印 刷できます。使用条件を受け入れた後に、「次へ」をクリックします。				
インストール・ディレクトリー	「選択」をクリックして、 Marketing Operations をインストールするディレク トリーを参照します。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
Marketing Operations コンポーネ	インストールするコンポーネントを選択します。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
Marketing Operations データベー スのセットアップ	Marketing Operations データベースをセットアップするために、以下のいずれ かのオプションを選択します。				
	• 自動データベース・セットアップ				
	• 手動データベース・セットアップ				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
Marketing Operations データベー	適切なデータベース・タイプを選択します。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
Marketing Operations データベー	Marketing Operations データベースに関する以下の詳細を入力します。				
スの接続	 データベース・ホスト名 				
	 データベースのポート 				
	・ データベース・システム ID (SID)				
	 データベース・ユーザー名 				
	• パスワード				
	重要: IBM Marketing Software 製品が分散環境にインストールされている場 合、スイートに属するすべてのアプリケーションのナビゲーション URL では IP アドレスではなく、マシン名を使用する必要があります。また、クラスター 環境において、デプロイメントにデフォルトのポート 80 または 443 とは異な るポートを使用する場合は、このプロパティーの値にポート番号を使用しないで ください。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
Marketing Operations JDBC 接続	JDBC 接続を検討して確認します。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				

表 9. IBM Marketing Operations インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
Marketing Operations 接続の設定	以下の接続設定を入力します。
	• ネットワーク・ドメイン・ネーム
	 ホスト名
	 ポート番号
	必要であれば、「セキュア接続の使用」チェック・ボックスを選択します。
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
データ・ソースの作成	インストーラーで、ご使用の Web アプリケーション・サーバー (WebSphere または WebLogic) に JDBC データ・ソースを作成できます。このデータ・ソー スは、Marketing Operations Web アプリケーションが Marketing Operations システム・テーブルに接続できるようにするために必要です。インストーラーで このステップを省略し、インストールの完了後に Web アプリケーション・サー バーの管理コンソールでデータ・ソースを作成することもできます。
	「Marketing Operations データ・ソースの作成 (Create Marketing Operations Datasource)」チェック・ボックスを選択した場合、インストーラーは、指定された情報を使用してデータ・ソースを作成します。
	 アプリケーション・サーバーが稼働している必要があります。
	• データ・ソースの名前を入力します。
	インストーラーは INIDI タ (mlanda) を自動的に作成します
	「アプリケーション・サーバーがインストールされているディレクトリーを入
	カします。
	WebSphere の場合、これは、profiles ディレクトリーを含むディレクトリ ーです。インストーラーの完了後、このデータ・ソースを使用する前に、 WebSphere を再始動する必要があります。
	WebLogic の場合、これは common ディレクトリーを含むディレクトリーです。
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
アプリケーション・サーバー情報	アプリケーション・サーバーが WebSphere の場合のみ適用されます。
(Application server information) (WebSphere)	 Marketing Operations を配置する予定のアプリケーション・サーバー・プロファイルを入力します。
	 プロファイルに含まれているサーバーの名前を入力します。
	 WebSphere でセキュリティーが有効になっている場合は、管理者のユーザー ID とパスワードを入力します。
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。

表 9. IBM Marketing Operations インストーラーの GUI (続き)

ウィンドウ	説明
アプリケーション・サーバー情報 (Application server information)	アプリケーション・サーバーが WebLogic の場合のみ適用されます。
(WebLogic)	ドメイン・サーバー名、および管理者のユーザー ID とパスワードを指定しま す。SSL が有効になっている場合は、ドメインの HTTP ポートを入力します。
	WebLogic 管理コンソールで、データベース・ドライバーのクラスパスを WebLogic に追加する必要があることに注意してください。
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
サポートされているロケール	このウィンドウには、Marketing Operations でサポートされるすべてのロケー ルが表示されます。
デフォルト・ロケール	インストール環境のためのデフォルト・ロケールを選択します。デフォルトで英 語が選択されます。
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。
プリインストール・サマリー	インストール・プロセスで追加した値を検討して確認します。
	「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。
	Marketing Operations インストーラーが開きます。
インストール完了	「完了」をクリックして Marketing Platform インストーラーを終了し、IBM
	Marketing Software インストーラーに戻ります。

- 「インストール完了」ウィンドウで「完了」をクリックし、 Marketing Operations インストーラーを終了して IBM Marketing Software インストーラ ーに戻ります。
- IBM Marketing Software インストーラーの指示に従って、Marketing Operations のインストールを終了します。 次の表に示された情報を使用して、 IBM Marketing Software インストーラーの各ウィンドウで適切な操作を行いま す。

表 10. IBM Marketing Software インストーラー GUI

ウィンドウ	説明				
デプロイメント EAR ファイル	エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを作成して IBM Marketing				
	Software 製品をデプロイするかどうかを指定してください。				
	「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
EAR ファイルのパッケージ化	「デプロイメント EAR ファイル」ウィンドウで「デプロイメントのために				
	EAR ファイルを作成します」を選択した場合、このウィンドウが表示されま				
	す。				
	EAR ファイルにパッケージ化するアプリケーションを選択します。				
EAR ファイルの詳細	EAR ファイルに関する以下の情報を入力します。				
	・ エンタープライズ・アプリケーション ID				
	 表示名 				
	• 説明				
	・ EAR ファイル・パス				

表 10. IBM Marketing Software インストーラー GUI (続き)

ウィンドウ	説明				
EAR ファイルの詳細 (続き)	「はい」または「いいえ」を選択して、追加の EAR ファイルを作成します。 「はい」を選択した場合、新しい EAR ファイルに関する詳細を入力する必要が あります。				
TJU1XJF EAR J71ル	別の EAR ファイルを作成して IBM Marketing Software 製品をテノロイする かどうかを指定してください。 「次へ」をクリックして、次のウィンドウに移動します。				
インストール完了	このウィンドウには、インストール中に作成されたログ・ファイルの場所が示されます。				
	いすれかのインストール詳細を変更する場合は、「戻る」をクリックします。				
	完了」をクリックして、IBM Marketing Software インストーラーを閉じま す。				

コンソール・モードを使用した Marketing Operations のインストール

コンソール・モードを使用すると、コマンド・ライン・ウィンドウで Marketing Operations をインストールできます。コマンド・ライン・ウィンドウでは、各種オ プションを選択して、インストールする製品の選択や、インストール用のホーム・ ディレクトリーの選択などのタスクを実行できます。

Marketing Operations をインストールする前に、以下が構成済みであることを確認 してください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ

コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エン コードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などの その他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報 がそれらのエンコードにより読み取れなくなります。

- コマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウを開いて、IBM Marketing Software インストーラーと、Marketing Operations インストーラーを保存した ディレクトリーにナビゲートします。
- 2. 次のいずれかのアクションを行って、IBM Marketing Software インストーラー を実行します。
 - Windows の場合、次のコマンドを入力します。

ibm_ims_installer_full_name -i console

例: IBM_Marketing_Software_Installer_10.0.0.0_win.exe -i console

• UNIX の場合、*ibm_ims_installer_full_name*.sh ファイルを呼び出します。

例: IBM_Marketing_Software_Installer_10.0.0.sh

- コマンド・ライン・プロンプトに表示される指示に従ってください。コマンド・ ライン・プロンプトでオプションを選択しなければならないときは、以下のガイ ドラインを使用します。
 - デフォルト・オプションはシンボル [X] で定義されます。
 - オプションを選択またはクリアするには、そのオプションに定義されている 番号を入力して、Enter キーを押します。

例えば、インストール可能なコンポーネントが以下のリストに表示されていると 想定します。

- 1 [X] Marketing Platform
- 2 [X] Campaign
- 3 [] Contact Optimization
- 4 [] Distributed Marketing

Distributed Marketing をインストールし、Campaign をインストールしない場 合、コマンド **2,4** を入力します。

すると、選択したオプションが以下のリストのように表示されます。

- 1 [X] Marketing Platform
- 2 [] Campaign
- 3 [] Contact Optimization
- 4 [X] Distributed Marketing

注: Marketing Platform のオプションは、既にインストール済みである場合を 除いて、クリアしないでください。

- IBM Marketing Software インストーラーは、インストール・プロセスの間に、 Marketing Operations インストーラーを起動します。Marketing Operations インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従ってく ださい。
- Marketing Operations インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウで quit を入力すると、ウィンドウはシャットダウンします。IBM Marketing Software インストーラーのコマンド・ライン・プロンプト・ウィンドウの指示に従って、Marketing Operations のインストールを完了します。

注: インストールの間にエラーが発生した場合、ログ・ファイルが生成されま す。このログ・ファイルを表示するには、インストーラーを終了する必要があり ます。

Marketing Operations のサイレント・インストール

Marketing Operations を複数回インストールするには、無人モード (サイレント・モード) を使用します。

Marketing Operations をインストールする前に、必ず以下の要素を構成しておいて ください。

- アプリケーション・サーバー・プロファイル
- データベース・スキーマ

サイレント・モードを使用して Marketing Operations をインストールするときに は、インストール中に必要な情報を取得するために応答ファイルが使用されます。 製品をサイレント・インストールするには、応答ファイルを作成する必要がありま す。応答ファイルは、以下のいずれかの方法によって作成できます。

- 応答ファイル作成時のテンプレートとして、サンプル応答ファイルを使用します。サンプル応答ファイルは、ご使用の製品インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。サンプル応答ファイルについて詳しくは、 『サンプル応答ファイル』を参照してください。
- 製品をサイレント・モードでインストールするには、その前に、GUI (Windows) モード、X Window System (UNIX) モード、またはコンソール・モードで製品 インストーラーを実行します。IBM Marketing Software スイート・インストー ラー用の応答ファイルが 1 つ、製品インストーラー用の応答ファイルが 1 つ以 上作成されます。ファイルは、ユーザーの指定したディレクトリー内に作成され ます。

重要: セキュリティー上の理由で、インストーラーはデータベース・パスワード を応答ファイルに保存しません。応答ファイルを作成するときは、各応答ファイ ルを編集してデータベース・パスワードを入力する必要があります。各応答ファ イルを開いて PASSWORD を検索し、この応答ファイルの編集を行う必要のあ る場所を見つけます。

サイレント・モードで実行するとき、インストーラーは順番に以下のディレクトリ ーで応答ファイルを探します。

- IBM Marketing Software インストーラーが保存されているディレクトリー内
- 製品をインストールするユーザーのホーム・ディレクトリー内。

すべての応答ファイルを、必ず同じディレクトリーに入れてください。コマンド・ ラインに引数を追加することによって、応答ファイルを読み取るためのパスを変更 できます。例: -DUNICA_REPLAY_READ_DIR="myDirPath" -f myDirPath/ installer.properties

Windows の場合は、次のコマンドを使用します。

• ibm_ims_installer_full_name -i silent

以下に例を示します。

IBM_Marketing_Software_Installer_10.0.0.0_win.exe -i silent Linux の場合は、次のコマンドを使用します。

• ibm_ims_installer_full_name _operating_system .bin -i silent

以下に例を示します。

IBM_Marketing_Software_Installer_10.0.0.0_linux.bin -i silent

サンプル応答ファイル

Marketing Operations のサイレント・インストールをセットアップするため、応答 ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成する際には、サンプル応 答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 11. サンプル応答ファイルの説明

サンプル応答ファイル	説明
installer.properties	IBM Marketing Software マスター・インストーラーのサ ンプル応答ファイル。
<pre>installer_product intials and product version number.properties</pre>	Marketing Operations マスター・インストーラーのサン プル応答ファイル。 例えば、installer_uc <i>n.n.n.</i> properties (ここで、
	n.n.n.n はハージョン番号) は、Campaign インストーラーの応答ファイルです。
<pre>installer_report pack initials, product initials, and version number.properties</pre>	レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイ ル。
	例えば、installer_urpc <i>n.n.n.n</i> .properties (<i>n.n.n.n</i> は バージョン番号) は、Campaign レポート・パック・イン ストーラーの応答ファイルです。

インストーラーの実行後に EAR ファイルを作成する

EAR ファイルは、IBM Marketing Software 製品のインストール後に作成できま す。好みの製品を組み合わせて、EAR ファイルの作成を行えます。

注: コマンド・ラインから、コンソール・モードでインストーラーを実行します。

IBM Marketing Software 製品のインストール後に EAR ファイルを作成する場合 には、以下の手順に従います。

 コンソール・モードでインストーラーを初めて実行している場合は、インストー ル対象の製品ごとにインストーラーの .properties ファイルのバックアップ・ コピーを作成してください。

それぞれの IBM 製品インストーラーは、.properties という拡張子の 1 つ以 上の応答ファイルを作成します。これらのファイルは、インストーラーが格納さ れているのと同じディレクトリーに入っています。拡張子 .properties を持つ すべてのファイルを必ずバックアップしてください。これには、すべての installer_productversion.properties ファイル、および IBM インストーラー 自体のファイル (installer.properties という名前) も含みます。

無人モードでインストーラーを実行する予定の場合は、元の .properties ファ イルをバックアップする必要があります。これは、無人モードでインストーラー を実行するとこれらのファイルが消去されるためです。 EAR ファイルを作成 するには、インストーラーが初期インストールの際に .properties ファイルに 書き込むための情報が必要です。

- コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーをインストーラーが含まれるディ レクトリーに変更します。
- 3. インストーラーの実行可能ファイルに次のオプションを指定して実行します。

-DUNICA GOTO CREATEEARFILE=TRUE

UNIX タイプのシステムでは、.sh ファイルではなく .bin ファイルを実行します。

インストーラー・ウィザードが実行されます。

- 4. ウィザードの指示に従ってください。
- 追加の EAR ファイルを作成する前に、初めてコンソール・モードで実行する 前に作成したバックアップを使って (1 つまたは複数の).properties ファイル を上書きしてください。

JAVA 環境変数

Java 環境変数は、システム全体の値を保管するグローバルなシステム変数です。 IBM Marketing Software 製品をインストールするには、マシンに Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.6 以上があることを確認してください。

注: JAVA_HOME 環境変数は IBM Marketing Software 製品のインストールに必 須ではありませんが、これが存在する場合は、Sun JRE バージョン 1.6 でなければ なりません。

JAVA_HOME 環境変数が存在し、間違った JRE をポイントしている場合、IBM Marketing Software インストーラーを実行する前に、*JAVA_HOME* 変数を設定解除する必要があります。*JAVA_HOME* 変数を設定解除するには、以下のようにします。

• Windows の場合: コマンド・ウィンドウで、次のように入力します。

set JAVA HOME=leave empty and press return key

• UNIX タイプ・システム:端末で次のコマンドを入力します。

export JAVA_HOME=leave empty and press return key

環境変数を設定解除すると、IBM Marketing Software インストーラーは、インス トーラーに組み込まれている JRE を使用します。

インストールが完了した後で、環境変数をリセットすることができます。

インストールのプロンプト・ウィンドウ

Marketing Operations のインストール中に、いくつかのプロンプト・ウィンドウが 表示されます。必要な情報を入力した後、プロンプト・ウィンドウに入力結果が表 示されて、続行する前にそれを確認することが要求されます。プロンプト・ウィン ドウで、必要な場合に訂正を行うことができます。

参考のため、UNIX サーバーでコンソール・モードを使用してインストールすると きに表示されるプロンプトの例を以下に示します。必ず、実際のインストール時に 表示される指示に目を通してそれらに従ってください。

以下の例は、インストールを始める前に必要な情報を収集するのに役立ちますし、 インストール時のリファレンスとしても使用できます。 表 12. インストール時のプロンプトと応答の例

3777	古体
-bash-4.0S	初期フロンフト。マスター・インストーラー・ファイルの名前と、イン
	ストールに使用する、データペース・セットナップ・ユーティリティー
	用の友奴で相圧していたでい。
ロケールを選択 	奋号を指定して、リストされる言語の つを選択しより。アノオル ト・ロケールを使用するには、2 [maliab を選択し、 Fator モーを押
	ト・ロケールを使用するには、Z- English を選択し、Enter キーを押 します
	0.6.7。
(W)女	以前のパーションの設計がインストールされている場合は、アップクレードが開始されます。
	 同じバージョンの製品がインストールされている場合は、続行すると、
	すべてのテーブルおよびデータが除去されます。
	番号を指定して、無人インストールで使用する応答ファイルを生成する
	かどうかを選択します。応答ファイルを生成する場合は、宛先パスを指
	定できます。
製品機能の選択	フィーチャーの番号付きリストが表示されます。チェック・マーク付き
	([X]) のフィーチャーはインストールするものとして選択され、チェッ
	ク・マークなし ([]) のフィーチャーは選択されません。選択を変更
	するには、選択状態からクリア状態に (あるいはその逆に) 切り替える
	番号をコンマ区切りリストを使用して指定してから、Enter を押しま
	す。
	例えば、以下のようなフィーチャーのリストが表示されます。
	<pre>1- [X] IBM Marketing Platform 2- [X] IBM Marketing Operations</pre>
	 Marketing Platform のみをインストールするには 2 と入力してから
	Enter $\pm -\varepsilon$ #U.s.t.
マスター (Marketing Platform) インストー	I IL
インストール・ディレクトリー	
アプリケーション・サーバーの選択	
Platform データベースのタイプ	Marketing Platform システム・テーブル・データベースに関する情報
	を指定してください。
Platform データベースのホスト名	
Platform データベースのポート	
Platform データベース名/システム ID	
(SID)	
Platform データベースのユーザー名	
Platform データベースのパスワード	
JDBC 接続	
JDBC ドライバー・クラスパス	
製品別 (Marketing Operations) インストー	
概要	インストールするものとして選択した各製品フィーチャーについて、個
	別の製品名の後に再インストールに関する警告が表示されます。
インストール・ディレクトリー	

表	12.	イ	ンス	ト-	-ル時のブ	ロン	プト	と応答の例	(続き)
---	-----	---	----	----	-------	----	----	-------	------

プロンプト	応答
Marketing Operations データベースのセッ	番号を指定して自動または手動を選択します。
トアップ	 自動セットアップでは、マスター・インストールでこの機能について指定したのと同じ情報が使用されます。
	 手動セットアップでは、フィーチャー別の違いに対応するため、それぞれのデータベースおよび JDBC 特性について別々にプロンプトが出されます。
Marketing Operations サーバー/ホスト	
Marketing Operations サーバー・ポート	
Marketing Operations ドメイン・ネーム	インストールするすべてのフィーチャーについて、同じ企業ドメインを
(Marketing Operations Domain Name)	すべて小文字で指定します。
	注: 製品のインストール後に IP アドレスの変更が必要になった場合に
	発生する問題を回避するために、IP アドレスではなく、完全修飾ドメ イン名を使用してください。
サポートされているロケール	番号を指定して、言語を選択します。また、コンマ区切りリストを指定 して、複数のロケールを選択することもできます。
デフォルト・ロケール	番号を指定して、言語を選択します。
デプロイメント EAR ファイル	番号を指定して、エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルを作 成するかどうかを選択します。
第5章 配置の前に IBM Marketing Operations を構成する

Web アプリケーションを配置する前に、構成タスクを完了します。

Marketing Operations の手動登録

インストール中に Marketing Operations インストーラーが Marketing Platform システム・テーブル・データベースに接続できない場合、インストールは失敗しま す。この場合、Marketing Operations を手動で登録する必要があります。

インストーラーがシステム・テーブルへの接続に失敗した場合でも、インストール 処理は続行します。この場合、製品情報を Marketing Platform システム・テーブ ルに手動でインポートする必要があります。

この手順で言及される configTool ユーティリティーは、Marketing Platform イン ストールの tools/bin ディレクトリーにあります。 configTool ユーティリティー の使用に関する詳しい説明については、 67 ページの『第 11 章 configTool』を参 照してください。

以下の手順を実行して、 Marketing Operations を手動で登録します。

- 1. 以下の操作を実行して、環境変数を設定します。
 - Windows の場合、NAVIGATION_DIR という名前の環境変数を Marketing Operations conf ディレクトリーに設定します。
 - UNIX の場合、\$NAVIGATION_DIR という名前の環境変数を Marketing Operations conf ディレクトリーに設定します。
- 以下のコマンド例をガイドラインとして使用して、configTool ユーティリティ ーを実行します。
 - Windows の場合、以下のコマンドを使用します。

configTool.bat -v -i -p "Affinium" -f "%NAVIGATION_DIR
%¥plan_registration.xml"

configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥plan_navigation_operations.xml"

Marketing Operations に財務モジュールがインストールされている場合、次のコマンドを実行します。

```
configTool.bat -v -i -p
"Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥plan_navigation_analytics.xml"
```

configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥plan_navigation_settings.xml"

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥plan_alerts_registration.xml"
```

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥plan_navigation_financials.xml"
```

configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|quicklinksCategory" -f
"%NAVIGATION_DIR%¥umo_quicklinks_registration.xml"

• UNIX の場合、./configTool.sh ファイルを使用して、以下のコマンドで configTool ユーティリティーを実行します。

```
./configTool.sh -v -i -p "Affinium" -f "$NAVIGATION_DIR/
plan_registration.xml"
```

./configTool.sh -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f
"\$NAVIGATION_DIR/plan_navigation_operations.xml"

Marketing Operations に財務モジュールがインストールされている場合、次のコマンドを実行します。

```
./configTool.bat -v -i -p
"Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics" -f
"$NAVIGATION_DIR/plan_navigation_analytics.xml"
```

```
./configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu"
-f "$NAVIGATION_DIR/plan_navigation_settings.xml"
```

./configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f
"\$NAVIGATION_DIR/plan_alerts_registration.xml"

./configTool.sh -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f
"\$NAVIGATION_DIR/plan_navigation_financials.xml"

```
./configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|quicklinksCategory" -f
"$NAVIGATION_DIR/¥umo_quicklinks_registration.xml"
```

注: 手動登録の場合、 Marketing Platform が Marketing Operations と同 じコンピューターにインストールされていなければ、 Marketing Platform ツールをコンピューターにインストールするか、または Marketing Operations xml 構成ファイルをコンピューターにコピーする必要がありま す。

Marketing Operations システム・テーブルの作成およびデータ設定

Marketing Operations のインストール中に自動データベース・セットアップが失敗 した場合、 Marketing Operations システム・テーブルを手動で作成してデータ設 定する必要があります。 Marketing Operations システム・テーブルを生成するに は、umodbsetup ユーティリティーを実行する必要があります。

umodbsetup ユーティリティーは、以下のいずれかのタスクを実行します。

Marketing Operations データベースで必要なシステム・テーブルを作成し、必要なデフォルト・データをシステム・テーブルに追加します。

データベースを作成してデータを追加するためのスクリプトをファイルに出力します(このファイルは、後で、ユーザーまたはデータベース管理者がユーザーのデータベース・クライアントで実行できます)。

環境変数の構成

umodbsetup ユーティリティーを実行する前に、以下の手順を実行して、環境変数を 適切に構成します。

- <*IBM_IMS_Home>*¥<*MarketingOperations_Home>*¥tools¥bin ディレクトリーで、 setenv ファイルを見つけ、テキスト・エディターで開きます。
- JAVA_HOME 変数が正しい Java インストール・ディレクトリーを示しており、DBDRIVER_CLASSPATH 変数の最初の項目が JDBC ドライバーであることを確認します。この環境変数の設定について詳しくは、 29 ページの『JAVA環境変数』を参照してください。
- 3. ファイルを保存して閉じます。
- 4. <*IBM_IMS_Home*>¥<*MarketingOperations_Home*>¥tools¥bin ディレクトリーで、 umo jdbc.properties ファイルを見つけて開きます。
- 5. 以下のパラメーターの値を設定します。
 - umo_driver.classname
 - umo_data_source.url
 - umo_data_source.login
 - umo_data_source.password
- 6. ファイルを保存して閉じます。

データベース・セットアップ・ユーティリティーの実行

コマンド・プロンプトまたは UNIX シェルで、

<IBM_IMS_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥tools¥bin ディレクトリーに移動し ます。 umodbsetup ユーティリティーを実行し、自身の状況に必要なパラメーター に適切な入力データを指定してください。

例えば、次のコマンドは、(アップグレードではなく) フルデータベース・インスト ールを実行し、ロケールを en_US に設定して、ロギング・レベルを high に設定 します。

./umodbsetup.sh -t full -L en_US -1 high

ユーティリティーについて指定できるすべての変数の説明は以下のとおりです。

表 13. umodbsetup.sh ユーティリティーの変数

変数	説明
-h	ユーティリティーのヘルプを表示します。
-1	umodbsetup ユーティリティーのアクションによる出力を umo-tools.log ファイルに 記録します。このファイルは < <i>IBM_IMS_Home></i> ¥< <i>MarketingOperations_Home></i> ¥tools¥logs ディレクトリーにありま す。この変数はロギング・レベルを指定します。 ロギング・レベルは、high、medium、または low に設定できます。

表 13. umodbsetup.sh ユーティリティーの変数 (続き)

変数	説明
-L	インストールのデフォルト・ロケールを設定します。例えば、ドイツ語版のインスト
	ールでは -L de_DE を使用してください。
	 ロケールについて有効な入力値としては
	de DE, en GB, en US, es ES, fr FR, it IT, ia IP, ko KR, pt BR, ru RU,
	zh CN があります。
	注: ロケール情報は大/小文字を区別するので、本書に記載されているとおりに使用す
	る必要があります。
-m	スクリプトを <ibm_ims_home>¥<marketingoperations_home>¥tools ディレクトリー内</marketingoperations_home></ibm_ims_home>
	のファイルに出力します。このファイルは後で手動で実行することができます。この
	オプションは、データベース・クライアント・アプリケーションからスクリプトを実
	行する必要がある場合に使用してください。この変数を使用すると、スクリプトが
	umodbsetup ツールによって実行されなくなります。
-t	データベース・インストールのタイプ。有効な値は full と upgrade です。例え
	ば、-t full とします。
-V	冗長。
-b	アップグレードの場合のみ。アップグレードしようとしているデータベースの基本バ
	ージョンを識別します。
	 デフォルトで、ユーティリティーは、アップグレードしようとしているデータベース
	のバージョンを検出します。ただし、以前にデータベースをアップグレードしようと
	したときに何らかの形で失敗していた場合、アップグレードが失敗してもバージョン
	が更新されていることがあります。問題を修正して再びユーティリティーを実行する
	ときには、この変数を -f 変数と共に使用して、正しい基本バージョンを指定してく
	ださい。
	例: -f -b 9.0.0.0
-f	アップグレードの場合のみ。データベースで検出される基本バージョンをオーバーラ
1	イドして、-b 変数で指定された基本バージョンがユーティリティーで使用されるよう
	にします。-b 変数の説明を参照してください。
-E	
	します。このオプションは、-t や -P などの他のオプションと共に使用できます。
	例: umodbsetup.bat/sh -E
-P	このオプションは、既存のパスワードを変更して、それを暗号化するために使用しま
	す。ユーサーかこのオフションを選択した場合、新しいバスワードを人力するための
	ノロンノトかツールによって出されます。新しいハスワートは、暗号化された後に
	u_{mino} , $u_$
	例: umodbsetup.bat/sh -P

データベース・スクリプトの手動実行

-m 変数を使用してスクリプトを出力し、データベース・クライアント・アプリケー ションから実行できるようにしてある場合は、ここで、そのスクリプトを実行して ください。 システム・テーブルを作成してデータを追加する前に plan.war ファイルを配置し ないでください。

環境変数の設定

Windows マシンにインストールされている WebLogic Web アプリケーション・サ ーバーに Marketing Operations を配置する予定の場合は、環境変数を指定しま す。

WebLogic がインストールされているマシンで、以下の値を Path System 環境変数 に追加します。

- Sun JDK がインストールされている bin ディレクトリーへの絶対パス。
- WebLogic がインストールされている server¥bin ディレクトリーへの絶対パス。

第6章概要

Marketing Operations を WebSphere および WebLogic に配置する際の一般ガイ ドラインがあります。

インストーラーを実行した後に EAR ファイルを作成して他の IBM 製品をその EAR ファイルに含めた場合は、この章に記載されているガイドラインに従うほか、 EAR ファイルに含めた製品の個々のインストール・ガイドに記載されているすべて の配置ガイドラインに従う必要があります。

ここでは、読者が Web アプリケーション・サーバーの使用方法を理解しているものと想定しています。「管理」コンソールの使用方法などに関する詳細は、Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

Websphere での Marketing Operations の配置

WebSphere Application Server (WAS) に、WAR ファイルまたは EAR ファイル から Marketing Operations アプリケーションを配置できます。

Websphere に Marketing Operations を配置する前に以下の点を考慮してください。

- ご使用のバージョンの WebSphere が、「Recommended Software Environments and Minimum System Requirements」の資料で説明されている要件 (必要なフィ ックスパックやアップグレードを含む)を満たしていることを検証してください。
- WebSphere Integrated Solutions コンソールを使用して、WebSphere Application Server を構成します。以下のステップでは、個々の制御を設定する ためのガイドラインを示します。

注: WebSphere Application Server のバージョンによって、ユーザー・インター フェース制御が表示される順序が異なり、別のラベルが使用されていることもあり ます。

以下の手順を実行して Marketing Operations の配置のための環境をセットアップ します。

- カスタム・プロパティーを定義します。「アプリケーション・サーバー」 >
 「<servers>」 > 「Web コンテナー」 > 「カスタム・プロパティー」フォー ムで、「新規」をクリックして以下の値を入力します。
 - 名前: com.ibm.ws.webcontainer.invokefilterscompatibility
 - 値: true
- JDBC プロバイダーを作成します。「リソース」>「JDBC」>「JDBC プロ バイダー」フォームで、「新規」をクリックします。以下のフィールドも含め て、「新規 JDBC プロバイダーの作成」ウィザードを完了します。

インストーラーを使用して構成する場合、Web アプリケーション・サーバーで のデータ・ソースの作成を省略できます。

- a. 「実装タイプ」で「接続プール」データ・ソースを選択します。
- b. サーバー上のデータベース・ドライバー JAR ファイルのネイティブ・ライ ブラリー・パスを指定します。 例えば、db2jcc4.jar/ojdbc6.jar/ sqljdbc4.jar。
- データ・ソースを作成します。「リソース」 > 「JDBC」 > 「データ・ソー ス」フォームで、「新規」をクリックします。以下の操作を実行して、データ・ ソースの作成ウィザードを完了します。

インストーラーを使用して構成する場合、Web アプリケーション・サーバーで のデータ・ソースの作成を省略できます。

- a. データ・ソース名を指定します。
- b. 「JNDI 名」に plands と入力します。
- c. ステップ 2 で作成した JDBC プロバイダーを選択します。
- d. データベース名およびサーバー名を指定します。
- e. 「マッピング構成」別名で WSLogin を選択します。
- データ・ソースのカスタム・プロパティーを定義します。「JDBC プロバイダー」 > 「<database provider>」 > 「データ・ソース」 > 「カスタム・プロパティー」フォームで、「新規」をクリックして、以下の 2 つのプロパティーを追加します。
 - 名前: user
 - 值: <user_name>
 - 名前: password
 - 值: <password>

Marketing Operations システム・テーブルが DB2 内にある場合は、 resultSetHoldability プロパティーを見つけ、その値を 1 に設定します。この プロパティーが存在しない場合は、追加してください。

- JVM を構成します。「アプリケーション・サーバー」 > 「<server>」 > 「プ ロセス定義」 > 「Java 仮想マシン」フォームで、「クラスパス」を見つけ、以 下の項目をスペースで区切って「汎用 JVM 引数」として追加します。
 - -Dplan.home=<IBM_IMS_Home>¥<MarketingOperations_Home>

ここで、<*IBM_IMS_Home>* は最上位の IBM ディレクトリーへのパスであり、 <*MarketingOperations_Home>* は Marketing Operations がインストールされ ているディレクトリーへのパスです。通常、このパスは IBM IMS/MarketingOperations です。

- -Dclient.encoding.override=UTF-8
- 6. WebSphere Application Server の JSP コンパイル・レベルを 17 に設定します。

WAR または EAR ファイルの配置

新規エンタープライズ・アプリケーションを配置する場合、WebSphere Integrated Solutions Console に一連のフォームが表示されます。以下のステップでは、それらのフォームで個々の制御を設定するためのガイドラインを示します。WebSphere の

バージョンによって、制御が表示される順序が異なる可能性があります。また、別 のラベルが使用されている場合もあります。

以下の手順を実行して、WAR または EAR ファイルを配置します。

- 「アプリケーション」 > 「新規アプリケーション」 > 「新規エンタープライズ・アプリケーション (New Enterprise Application)」を選択します。
- 2. 初期フォームで、「リモート」ファイル・システムを選択してから、「参照」 で plan.war ファイルまたは EAR ファイルを指定します。
- 次の「アプリケーション・インストールの準備」ウィンドウで、以下のように します。
 - 「詳細」を選択します。
 - 「デフォルト・バインディングの生成」を選択します。
 - 「既存バインディングをオーバーライドする」を選択します。
- 4. 「インストール・オプションの選択」ウィンドウで以下の操作を完了します。
 - 「JavaServer Pages ファイルのプリコンパイル」を選択します。
 - 「アプリケーション名」に plan と入力します。
 - 「Web および EJB モジュールのクラス再ロード設定をオーバーライドする」を選択します。
 - 「再ロード間隔(秒)」では、4などの整数を入力します。
- 5. 「サーバーにモジュールをマップ」ウィンドウで、「モジュール」を選択しま す。EAR を配置した場合は、すべての WAR ファイルを選択してください。
- 6. 「JSP をコンパイルするためのオプションを指定」ウィンドウで、「Web モ ジュール」を選択します。EAR を配置した場合は、すべての WAR ファイル を選択してください。
- 7. 「JDK ソース・レベル」を 17 に設定します。
- 8. 「Web モジュールの JSP 再ロード・オプション」フォームで、「JSP: クラス の再ロードを有効にする」を選択し、「JSP: 再ロード間隔 (秒)」に 5 と入力 します。
- 9. 「共有ライブラリーをマップ」ウィンドウで、「アプリケーション」および 「モジュール」を選択します。
- 10. 「共有ライブラリーの関係をマップ」ウィンドウで、「アプリケーション」お よび「モジュール」を選択します。
- 11. 「リソース参照をリソースにマップ」ウィンドウでモジュールを選択し、「タ ーゲット・リソース JNDI 名」に plands と入力します。
- 12. 「Web モジュールのコンテキスト・ルートをマップ」ウィドウで、「コンテキ スト・ルート」に /plan と入力します。
- 13. 設定を確認して保存します。

クラス・ローダー・ポリシーの定義

クラス・ローダー・ポリシーは、WAS でアプリケーションを構成する方法を定義 します。 Marketing Operations を配置する前に WAS のデフォルトの設定をいく つか変更する必要があります。

以下の手順を完了して、クラス・ローダー・ポリシーを定義します。

- 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「plan」 > 「クラス・ローダ ー」で、「Web および EJB モジュールのクラス再ロード設定をオーバーライ ドする」を選択します。
- 2. 「クラス・ローダー」順序では、「最初にローカル・クラス・ローダーをロード したクラス (親は最後)」を選択します。
- 「WAR クラス・ローダーのポリシー (WAR class loader policy)」で、「ア プリケーション用の単一のクラス・ローダー (Single class loader for application)」を選択します。
- 4. 「適用」および「設定の保存」をクリックします。

Cookie の設定の定義

「Websphere エンタープライズ・アプリケーション」の 「セッション管理」オプ ションを使用し、Cookie の設定を定義してセットする必要があります。

以下の手順を完了して、Cookie の設定を定義します。

- 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「*plan*」 > 「セッション管理」 へ移動します。
- 2. 「セッション管理のオーバーライド」を選択します。
- 3. 「Cookie を使用可能にする」を選択します。
- 「適用」をクリックして、「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「plan」 > 「セッション管理」 > 「Cookie」に移動します。
- 5. Marketing Operations の 「**Cookie** 名」を JSESSIONID から UMOSESSIONID に 変更します。
- 6. 「適用」および「設定の保存」をクリックします。

EAR モジュール設定の定義

EAR ファイルを配置した場合は、EAR ファイルに含まれている個々の WAR ファ イルの設定を定義する必要があります。

以下の手順を完了して、EAR ファイル・モジュールの設定を定義します。

- 1. 「エンタープライズ・アプリケーション」に移動して、EAR ファイルを選択し ます。
- 「モジュールの管理」フォームで、WAR ファイルの 1 つ (例えば、 MktOps.war) を選択します。
- 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「EAR」 > 「モジュールの管理」 > 「WAR」フォームで以下の手順を実行します。
 - a. 「開始ウェイト」を 10000 に設定します。
 - b. 「クラス・ローダー順序」では、「最初にアプリケーション・クラス・ロー ダーをロードしたクラス」を選択します。
- 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「EAR」 > 「モジュールの管理」 > 「WAR」 > 「セッション管理」で、「Cookie を使用可能にする」を 選択します。

- 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「EAR」 > 「モジュールの管理」 > 「WAR」 > 「セッション管理」 > 「Cookie」で以下の手順を実行します。
 - a. 「Cookie 名」を CMPJSESSIONID に設定します。
 - b. 「**Cookie** 最大存続期間」では、「現行のブラウザー・セッション」を選択 します。
- 「エンタープライズ・アプリケーション」 > 「EAR」 > 「モジュールの管理」 > 「WAR」 > 「セッション管理」で以下の情報を入力します。
 - a. 「オーバーフローの許可」を選択します。
 - b. 「メモリー内の最大セッション・カウント」に 1000 と入力します。
 - c. 「セッション・タイムアウト」で「タイムアウトの設定」を選択し、30 と 入力します。
- 7. 他の WAR ファイル (unica.war や plan.war など) のそれぞれについても同 じ設定を定義します。

注: Campaign.war ファイルが EAR ファイル内にも存在し、 Marketing Operations と Campaign とを統合する計画の場合、Campaign.war ファイルに 対して同じ設定を定義してください。

WebLogic での Marketing Operations の配置

WebLogic での Marketing Operations の配置については、以下のガイドラインを 使用してください。

- IBM Marketing Software 製品は、WebLogic によって使用される JVM をカス タマイズします。 JVM 関連のエラーが発生した場合に、IBM Marketing Software 製品専用の WebLogic インスタンスを作成することができます。
- 同一の WebLogic ドメインに複数の Marketing Operations アプリケーション をインストールしないでください。
- 始動スクリプト (startWebLogic.cmd) で JAVA_VENDOR 変数を調べて、使用 する WebLogic ドメイン用に選択された Software Developement Kit (SDK) が Sun SDK であることを確認します。その変数は、JAVA_VENDOR=Sun に設定され ている必要があります。それが JAVA_VENDOR=BEA に設定されている場合、 JRockit が選択されています。 JRockit はサポートされていません。選択されて いる SDK を変更する方法については、WebLogic の文書を参照してください。

WebLogic へ Marketing Operations を配置するには以下の手順を実行します。

- ご使用のオペレーティング・システムが AIX[®] である場合は、Marketing Operations の WAR ファイルを解凍し、xercesImpl.jar ファイルを WEB_INF/lib ディレクトリーから削除して、WAR ファイルを再作成します。 イ ンストーラーによって製品が EAR ファイルにまとめられている場合は、まず、 そのファイルを解凍して WAR ファイルを取得してから、EAR ファイルを再作成 する必要があります。
- 2. IIS プラグインを使用するように WebLogic を構成する場合は、WebLogic の 資料を見直して、他にも要件があるかどうかを確認します。

- WebLogic ドメイン・ディレクトリーの下の bin ディレクトリーで、 setDomainEnv スクリプトを見つけ、テキスト・エディターで開きます。スクロ ールして JAVA_OPTIONS プロパティーを表示し、次の項目を追加します。項目を 区切るにはスペースを使用します。
 - -Dplan.home=<IBM_IMS_Home>¥<MarketingOperations_Home>

ここで、 *<IBM_IMS_Home>* は最上位の IBM ディレクトリーへのパスであ り、 *<MarketingOperations_Home>* は Marketing Operations がインストー ルされているディレクトリーへのパスです。通常、このディレクトリーは IBM IMS/MarketingOperations です。

- -Dfile.encoding=UTF-8
- 4. ファイルを保存して閉じます。
- 5. WebLogic を再始動します。
- Marketing Operations を Web アプリケーション・モジュールとして配置します。 plan.war を選択します。
- 7. 配置した Web アプリケーションを開始します。

第7章 配置後の IBM Marketing Operations の構成

Marketing Operations アプリケーションを配置して開始した後に、インストール済 み環境にログインしてそれを確認します。システム・ユーザーおよびテスト・ユー ザーの構成や、E メールおよびマークアップのセットアップなど、いくつかの基本 的な構成ステップがあります。

注: その他のシステム・セットアップ・タスクは、「Marketing Operations 管理者ガ イド」に記載されています。

さらに、IBM Marketing Software レポート作成機能を使用する予定の場合は、 53 ページの『第 8 章 レポートのインストール』で説明されているタスクを実行す る必要があります。

インストールの検証

Marketing Platform をインストールした後に、インストールが正常に行われたこと を検証します。 IBM Marketing Software にログインした後に、「設定」ページの 「構成」リストで、 IBM Marketing Software 製品の名前が表示される場合、イン ストールは成功しました。

以下の手順を実行して、Marketing Platform インストールを検証します。

1. Internet Explorer を使って IBM Marketing Software URL にアクセスしま す。

インストール時にドメインを入力した場合、URL は次のようになります。この 場合、host は Marketing Platform がインストールされているマシン、 domain.com はホスト・マシンが常駐しているドメイン、port は Web アプリケ ーション・サーバーが listen するポート番号です。

http://host.domain.com:port/unica

2. デフォルトの管理者ログイン情報を使用してログインします。管理者ログインの ユーザー名は、asm admin です。

初回ログインの場合、ユーザー・パスワードのデフォルト値は password です。 パスワードを変更するよう求められます。既存のパスワードを入力することもで きますが、新しいパスワードを選択することをお勧めします。Marketing Platform インストールの検証時、このユーザーのパスワードを変更する必要が あります。

デフォルトのホーム・ページは Dashboard であり、ダッシュボードがセットア ップされるまでブランク・ページになります。Dashboard の WAR ファイルの 配置方法に関する説明については、「*Marketing Platform* インストール・ガイ ド」を参照してください。

- 3. 「設定」>「構成」を選択し、左側のリストに Marketing Operations が表示さ れていることを確認します。その後、「Marketing Operations」セクションを 展開して、「**umoConfiguration**」カテゴリーがリストに表示されていることを 確認します。
- オプション:ダッシュボードを構成するまで、「構成設定」ページを「ホーム」 ページにします。これにより、ログインするたびにブランク・ページが表示され ることはなくなります。

asm_admin ユーザーに Marketing Operations へのアクセス権限を付与 する

デフォルトの管理ユーザー (asm_admin) は、自動的に、Marketing Operations 構成 プロパティーにアクセスできます。ただし、Marketing Operations アプリケーショ ンへのアクセス権限を持つデフォルト・ユーザーは、構成しない限り存在しませ ん。

以下の手順を実行して、asm_admin ユーザーに、Marketing Operations へのアクセ ス権限を付与します。

- グループを作成します。例えば、「設定」>「ユーザー・グループ」>「新しい グループ」と選択して、Default-MarketOps-Group をセットアップします。
- 2. PlanAdminRole 役割および PlanUserRole 役割をグループに割り当てます。
- 3. asm_admin ユーザーをグループに割り当てます。
- 4. アプリケーション・サーバーを再始動します。
- 5. asm_admin として再度ログインします。
- 6. 「操作」>「計画」を選択することによって、Marketing Operations フィーチャーにアクセスできることを確認してください。

マークアップ・オプションの構成

Marketing Operations は、添付ファイルに関するコメントを入力するためのマーク アップ・ツールを備えています。Marketing Operations ユーザーがレビューの承認 を送信すると、承認者は、他のユーザーが参照可能な電子ファイルに自分のコメン トを直接入力できるようになります。

Marketing Operations には、以下のマークアップ・ツールが備わっています。

- ネイティブ Marketing Operations マークアップ:ネイティブ・マークアップ・ オプションは、PDF、HTML、JPG、PNG、GIF、および BMP の各形式のファ イルに適用できる各種のマークアップ機能を提供します。URL がわかれば、ユ ーザーは Web サイト全体にマークアップを付けることができます。その後、コ メントを Marketing Operations に保存できます。ネイティブ・マークアップは デフォルト・オプションです。Acrobat をクライアント・マシンにインストール する必要はありません。
- Adobe Acrobat マークアップ: このマークアップ・ツールの場合、Adobe Acrobat を各クライアント・マシンにインストールする必要があります。ユーザ ーは、Acrobat のすべてのコメント機能を適用することができ、編集した PDF を Marketing Operations に保存することができます。

マークアップ・オプションはグローバル設定です。異なるユーザーのグループに対して異なるマークアップ・オプションを有効にすることはできません。

表 14. Adobe Acrobat の互換性

オペレーティング・システム	Adobe Acrobat のバージョン	サポートされるブラウザー
Windows 7	Adobe Acrobat バージョン 11	Internet Explorer 9, Internet
		Explorer 10、 Internet Explorer 11
Windows 8.1	Adobe Acrobat バージョン 11	Internet Explorer 10
Windows 10	Adobe Acrobat DC	Internet Explorer 11
Mac OS X 10.10.3	Adobe Acrobat バージョン 11	Safari 8
Mac OSX 10.11	Adobe Acrobat DC	Safari 11

Adobe マークアップ・オプションの構成

Marketing Operations を配置するときに、デフォルトで、システムはネイティブ・ マークアップ・オプションを使用するように構成されます。代わりに Adobe マー クアップ・オプションを使用する場合は、以下の手順を実行します。

- 「設定」 > 「構成」 > 「Marketing Operations」 > 「umoConfiguration」
 > 「マークアップ」を選択します。その後、以下の値を指定してマークアップ・ プロパティーを構成します。
- markupServerType を SOAP に設定します。
- markupServerURL を Marketing Operations ホスト・サーバーの URL (完全 修飾ホスト名、および Web アプリケーション・サーバーが listen するポートを 含む) に設定します。次のパス形式を使用してください (*server>* および *<port>* の値は該当のものに置き換えてください)。

http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl

構成設定により、すべてのユーザーについて Adobe マークアップが有効になります。

クライアント・マシンでの Adobe のインストールと構成

ユーザーが Adobe マークアップを有効に利用できるようにするため、IBM Marketing Operations へのアクセスに使用される各クライアント・マシンに Adobe Acrobat 11 Professional をインストールする必要があります。

また、Internet Explorer ブラウザーを使用して IBM Marketing Operations にアク セスするユーザーは、PDF がブラウザーに表示されるように Internet Explorer の 設定を指定する必要があります。

Eメール設定の構成

Marketing Operations のインストール時に SMTP サーバーを指定して、インスト ール・プロセス中に E メール設定を構成できるようにします。

以下の手順を実行して、E メール設定を構成します。

- 「設定」>「構成」>「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「E メール」を選択します。
- 2. 「設定の編集」をクリックします。
- 3. notifyEMailMonitorJavaMailHost プロパティーの値を組織の SMTP サーバー のマシン名または IP アドレスに設定します。
- 4. notifyDefaultSenderEmailAddress プロパティーの有効な E メール・アドレス を指定します。システムは、E メール通知を送信するための有効な E メール・ アドレスがない場合には、このアドレスを使用して、E メールを送信します。
- 5. 変更を保存します。

Campaign との統合の構成

Marketing Operations は、必要に応じて IBM Campaign と統合されます。 Marketing Operations と Campaign が統合されていると、Marketing Operations のマーケティング・リソース管理機能を使用して、キャンペーンを作成、計画、承 認することができます。

Campaign 統合が有効になっている場合は、オファー統合を有効にして、オファー のライフサイクル管理タスクを Marketing Operations で実行することもできま す。

Campaign との統合を有効にするには、Marketing Operations にログインし、「設定」>「構成」ページで以下のプロパティーを設定します。

- IBM Marketing Software > Marketing Platform:
 - IBM Marketing Operations Campaign 統合 (MO_UC_integration を有効 にする必要があります)
 - IBM Marketing Operations オファー統合 (オプション、Campaign 統合が 有効な場合)
- **IBM Marketing**

Software」>「**Campaign**」>「**partitions**」>「**partition**[**n**]」>「サーバー」>「内部」:

- MO_UC_integration (以下の 3 つのオプション設定のいずれかを有効にする 予定の場合は、このオプションを「はい」に設定します)
- MO_UC_BottomUpTargetCells
- Legacy_campaigns
- IBM Marketing Operations オファー統合
- 「IBM Marketing Software」>「Marketing Operations」> 「umoConfiguration」> 「campaignIntegration」:
 - defaultCampaignPartition
 - webServiceTimeoutInMilliseconds

詳しくは、「Marketing Operations および Campaign 統合ガイド」を参照してください。

統合システム用の DB2 データベースの構成

Marketing Operations で統合システムと統合オファーを使用する予定の場合は、デッドロック状態が生じないように DB2 データベースの時間パラメーターを構成します。

DB2 データベースを構成するために次のステップを実行します。

- 1. DB2 管理ユーティリティー (get db cfg) を使用して、LOCKTIMEOUT および DLCHKTIME パラメーターの設定を確認します。
- 2. 以下のように、ロックのタイムアウト期間を 10 秒に設定します。

update db cfg using LOCKTIMEOUT 10

3. 以下のように、デッドロックのチェック時間を 15,000 ミリ秒に設定します。

update db cfg using DLCHKTIME 15000

デッドロックのチェック時間の設定により、複数のユーザーがデータベース表に同 時にアクセスしたときにデッドロック状態が発生しないようにします。

クラウド上の Workflow Service との統合

10.0.0.2

IBM Marketing Operations は、オプションでクラウド上の Workflow Service と統合されます。 Marketing Operations と Workflow Service が統合されている場合、Marketing Operations の拡張ワークフロー機能を使用して 再作業ループが指定されたワークフローを作成することができます。

情報交換

Marketing Operations と Workflow Service が統合されると、Workflow Service は Marketing Operations から得たワークフロー情報を使用します。

- プロジェクトを始動すると、Marketing Operations は Workflow Service と情報を共有します。共有されるのは、タスク番号とタスク・シーケンスのみです。
- Marketing Operations は、毎秒定期的に Workflow Service サーバーに API 呼び出しを行い、ワークフローのタスクの状態に関する情報を取得します。
- Marketing Operations は、Workflow Service サーバーに API 呼び出しを行い、ワークフローに対する以下のアクションが完了したときに状態を更新します。
 - ワークフローの開始。これは、プロジェクトの始動時に発生します。
 - タスクの開始。
 - タスクの完了。
 - タスクのスキップ。
 - 承認タスクの完了。
 - 承認タスクの拒否 (OnHold)。
 - 承認タスクのキャンセル。

重要: クラウド上の Workflow Service サーバーからオンプレミスの Marketing Operations サーバーへの API 呼び出しは行われません。そのため、ファイアウォ ールを変更する必要はありません。

旧バージョンからフィックスパック 10.0.0.2 へのアップグレード

Marketing Operations の旧バージョンからアップグレードする場合、Workflow Service との統合はデフォルトで無効になり、拡張ワークフロー機能が使用できなくなります。

Workflow Service との統合の構成

拡張ワークフロー機能を使用するには、その前に、Marketing Operations と Workflow Service との統合を構成する必要があります。

Marketing Operations と Workflow Service の統合を構成する前に、以下の前提条 件を満たしてください。

- 統合サービスを有効にする必要があります。詳しくは、 93 ページの 『Marketing Operations | umoConfiguration | integrationServices』を参照し てください。
- Workflow Service の構成プロパティーを設定する必要があります。詳しくは、 114 ページの『Marketing Operations | umoConfiguration | WorkflowService』を参照してください。
- PlanAPIUser が存在し、Marketing Operations の PlanAdmin グループに含まれ ている必要があります。

Marketing Operations インスタンスを Workflow Service に登録するため、以下の 手順を実行します。

- 1. 「設定」 > 「Marketing Operations 設定」 > 「Workflow Service 統合」 と移動します。
- 「クライアント組織 ID」を入力します。「クライアント組織 ID」には、最大
 8 桁までの固有の数値を指定する必要があります。 IBM お客様番号をクライアント組織 ID として使用できます。
- 「クライアント・アプリケーション名」を入力します。これは登録する Marketing Operations インスタンスの名前です。例えば、 DEV、SAT、UAT、PROD など。
- 4. 「顧客名」、「担当者」、「E メール・アドレス」を入力します。
- 5. 「送信」をクリックします。

Marketing Operations インスタンスの登録が正常に完了すると、「アカウント ID」が作成されます。このアカウント ID は、Workflow Service に関するあらゆ る通信に使用されます。

この登録ページには、次の情報も表示されます。

- Marketing Operations と Workflow Service との統合の現在の状態。
- Workflow Service ポーリング・スケジューラーの現在の状態。
- Marketing Operations と Workflow Service との通信の現在の状態。

注:必要であれば、登録の完了後に「顧客名」、「担当者」、および「E メール・ アドレス」といった連絡先情報フィールドを編集できます。

Marketing Operations Web アプリケーションを再始動する必要があります。

セキュリティー強化のための追加構成

このセクションの手順では、Web アプリケーション・サーバーの追加構成について 説明します。これらはオプションの構成ですが、実行するとセキュリティーを強化 できます。

X-Powered-By フラグの無効化

組織で、ヘッダー変数内の X-Powered-By フラグがセキュリティー・リスクになる ことが懸念される場合、次の手順を使用してこのフラグを無効にすることができま す。

- WebLogic を使用している場合、管理コンソールの 「*domainName*」>「構成」>「Web アプリケーション」で、「X-Powered-By ヘッダー」を 「X-Powered-By ヘッダーを送信しない (X-Powered-By Header will not be sent)」に設定します。
- 2. WebSphere を使用している場合は、以下の手順を実行します。
 - a. WebSphere 管理コンソールで、「サーバー」>「サーバー・タイプ」
 >「WebSphere Application Server」>「server_name」>「Web コンテナー設定」>「Web コンテナー」に移動します。
 - b. 「追加プロパティー」で、「カスタム・プロパティー」を選択します。
 - c. 「カスタム・プロパティー」ページで、「新規」をクリックします。
 - d. 「設定」ページで、com.ibm.ws.webcontainer.disablexPoweredBy という名 前のカスタム・プロパティーを作成し、値を false に設定します。
 - e. 「適用」または「OK」をクリックします。
 - f. コンソール・タスクバーの「保存」をクリックして、構成の変更を保存します。
 - g. サーバーを再始動します。

制限された Cookie パスの構成

Web アプリケーション・サーバーでは、セキュリティーを強化するために Cookie アクセスを特定のアプリケーションに制限できます。制限しない場合、Cookie は、 配置されたすべてのアプリケーションで有効になります。

- 1. WebLogic を使用している場合は、以下の手順を実行します。
 - a. 制限された Cookie パスを追加する WAR パッケージまたは EAR パッケ ージから weblogic.xml ファイルを抽出します。
 - b. 以下のコードを weblogic.xml ファイルに追加します。この場合、 context-path は、配置されているアプリケーションのコンテキスト・パスで す。IBM Marketing Software アプリケーションの場合、コンテキスト・パ スは、通常、/unica です。

```
<session-descriptor>
    <session-param>
        <param-name>CookiePath</param-name>
        <param-value>/context-path> </param-value>
        </session-param>
    </session-descriptor>
```

- c. WAR ファイルまたは EAR ファイルを再ビルドします。
- 2. WebSphere を使用している場合は、以下の手順を実行します。
 - a. WebSphere 管理コンソールで、「セッション・マネージャー」>「Cookie」タブに移動します。
 - b. 「Cookie パス」にアプリケーションのコンテキスト・パスを設定します。

IBM Marketing Software アプリケーションの場合、コンテキスト・パス は、通常、/unica です。

第8章 レポートのインストール

レポート作成機能のために、Marketing Operations は、別個のビジネス・インテリ ジェンス・アプリケーションである IBM Cognos と統合します。

レポート作成は、以下のコンポーネントに依存します。

- 「*Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」で指 定された要件を満たす IBM Cognos インストール済み環境。
- IBM システムを IBM Cognos インストール済み環境と統合する一連の IBM Marketing Software コンポーネント。
- IBM Cognos Report Authoring を使用して作成された、 Marketing Operations アプリケーションのレポートの例。

Marketing Platform は、レポート作成機能の統合の IBM サイドを提供します。レ ポート作成機能のインストールを完了するには、IBM Cognos システムで以下のレ ポート・パッケージ・インストーラーをすべて実行します。

- IBM
- IBM Marketing Platform
- IBM Marketing Operations

IBM Marketing Operations のレポート作成をインストールして設定する方法、お よび個別のコンポーネントとそれらが相互に対話する方法について詳しくは、 「*IBM Marketing Software Reports* インストールおよび構成ガイド」を参照してく ださい。

レポートの次のステップ

レポート機能を正常にインストールした後、レポートを使用してさらに作業するため以下のガイドラインを使用してください。

- 「ユーザーごとに認証」モードを使用するようにシステムを構成した場合は、該 当する IBM ユーザーが IBM アプリケーションからレポートを実行できるよう にしてください。これを実行する最も簡単な方法は、デフォルトの ReportsUser 役割を適切なユーザー・グループまたはユーザーに割り当てる方法です。
- Framework Manager データ・モデルおよび Report Authoring レポートに関す る一般情報については、「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」内の『レポー トの構成』という章を参照してください。 Marketing Operations レポートの構 成およびカスタマイズについては、「IBM Marketing Operations 管理者ガイド」 の『レポートの使用』の章を参照してください。
- ダッシュボード内で Cognos ダッシュボード・レポートを使用するには、「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」の『ダッシュボードの作成と管理』の章を参照してください。

第9章 クラスターでの IBM Marketing Operations のインスト ール

Marketing Operations のインストールの際に追加作業を実行すると、クラスターに Marketing Operations をインストールできます。

IBM Marketing Operations をクラスターにインストールするには、第2章から第 7章までの説明に従いながら、この章で示す情報をそれらの手順に補足します。

Marketing Operations をクラスターにインストールする場合、インストールを構成 する方法はいろいろあります。ただし、基本的なプロセスがあります。

- 1. 1 つのシステムでインストーラーを実行します。通常は、管理サーバー (または ご使用のアプリケーション・サーバー・タイプにおいて同等のもの)です。
- 2. すべての Marketing Operations インストールのアップロード・ファイルを保 管するためのファイル・ディレクトリーを作成し、共有します。
- 3. EAR ファイルを作成し、それをクラスター内の各マシンに配置します。
- 各システムが同じ Marketing Platform システム・テーブル、および同じ Marketing Operations システム・テーブルを共有するように構成します。
- 5. 各システムが共有ファイル・ディレクトリーを使用するように構成します。
- 6. クラスター内のどのマシンが通知を送信するかを決定します。次に、その他のす べてのマシンで通知プロセスを抑制します。
- 7. クラスター内のすべてのサーバーについて UMOSESSIONID Cookie を有効に します。
- 8. テンプレートおよびオファー・フォルダーの分散キャッシュ用の plan_ehcache.xml を構成します。

WebSphere のガイドライン

WebSphere のクラスターに Marketing Operations をインストールする場合は、 Marketing Operations を WebSphere にインストールするための手順に加えて、追 加の手順も実行してください。

データ・ソースの準備

データ・ソースの章では、Marketing Operations 用のデータベースを作成し、その JDBC データ・ソースをアプリケーション・サーバーに構成する手順を示します。 WebSphere 上のクラスターに対してこれらのタスクを実行するときは、以下に示す 追加の指示に注意してください。

- Marketing Operations データベースは、クラスター内のすべてのマシンにとってアクセス可能なマシン上に存在しなければなりませんが、クラスター内のマシン上である必要はありません。
- JDBC プロバイダーを構成するときに、スコープとしてクラスターを指定しま す。

製品のインストール

インストーラー実行の手順に従う際は、Marketing Operations クラスター内のすべ てのマシンにとってアクセス可能なマシン上に、 Marketing Platform および Marketing Operations を 1 回だけインストールするようにします。

それぞれのクラスター・メンバーにソフトウェアをインストールする必要はありま せん。その代わり、ソフトウェアを 1 回だけインストールし、EAR を作成して、 その EAR ファイルを各クラスター・メンバーに配置します。

追加の配置前手順

Marketing Operations を配置する前に、配置前の構成に関する章で記載したタスク に加えて、以下のタスクを実行します。

- Marketing Operations のインストール先の最上位ディレクトリーを共有します。例えば、Marketing Operations を C:¥MktOpsCluster¥IBM_IMS¥MarketingOperations にインストールするとします。この場合は、MktOpsCluster ディレクトリー全体を共有します。
- Marketing Operations のアップロード・ファイルを格納するためのフォルダー を管理サーバー上に作成し、共有します。このフォルダーは Shared_UMO_Artifacts フォルダーと呼ばれます。すべてのクラスター・メンバ ーは、このフォルダーの完全な制御権(読み取り、書き込み、変更、および削除) を持っていなければなりません。必要に応じて、このフォルダーをローカル・フ ァイル・システム階層の IBM ホーム・ディレクトリーの下に置くことができま す。

追加の配置手順

配置の章に記載されている説明のほかに、以下に示す追加事項に注意してください。

1. サーバーへのモジュールのマップ

WebSphere の「インストール・オプションの選択」ウィザードでオプションを設定 するときに、モジュールをサーバーにマップする際のクラスターおよび Web サー バーを選択します。

2. 汎用 JVM プロパティーに関する追加の手順

クラスター内の各マシンで、汎用 JVM プロパティーを構成します。

plan.home およびその他のプロパティーで指定するパスは、共有インストール・ディレクトリーを指していなければなりません。

クラスターに対して、以下の追加パラメーターを設定します。

- -DPLAN_CONFIG_GUID=Plan
- -Dplan.log.config=¥¥umoMachine¥SharedUnicaHome¥MarketingOperations ¥conf¥plan_log4j_client.xml
- -Dplan.local.log.dir=local_log_dir (ここで local_log_dir は、Marketing Operations がログを作成する、物理マシン上の書き込み可能フォルダーです)

• 通知を送信するべきでないマシンでは、「通知の抑制」パラメーターを次のよう に設定します。

-Dplan.suppressNotifications=true

通知を送信するノードを除くすべてのノードで、このプロパティーを設定しま す。

 ノードの CONF ディレクトリーに定義されたデフォルト・ファイルの代わりに、 別の plan_ehcache.xml ファイルを使用するには、そのノードについて -plan ehcache パラメーターを設定して、ファイルの場所を指定します。

セッション管理 Cookie の構成

クラスター内のサーバーによって使用されるセッション管理 Cookie の名前を定義 する必要があります。セッション管理 Cookie を構成するには、以下のようにしま す。

- WebSphere コンソールで、クラスター内のサーバーに関するプロパティーにア クセスします。Web コンテナー設定に移動し、セッション管理構成を開きま す。
- 2. Cookie を有効にし、UMOSESSIONID を Cookie 名として指定します。
- 3. 設定を保存し、クラスター内のすべてのサーバーについてこの手順を繰り返しま す。

追加の配置後手順

ロード・バランシングのプラグインを使用する場合は、以下の構成手順を実行する 必要があります。

 IBM Marketing Operations がクラスター環境で効率的に動作するためには、ユ ーザーはそのセッションの間ずっと 1 つのノード上にとどまらなければなりま せん。このセッション管理およびロード・バランシングのオプションは、セッシ ョン・アフィニティーと呼ばれます。セッション・アフィニティーを使用するよ うにインストール済み環境を構成する方法について詳しくは、ご使用のアプリケ ーション・サーバーの資料を参照してください。

注: この構成オプションを使用するシステムでノードに障害が発生した場合、そのノード上のすべてのユーザー・セッションも障害が発生します。ユーザー認証 は Marketing Operations 内の単一ノードにのみ適用されるため、ロード・バラ ンサーは、使用可能な別のノードにユーザーを切り替えることはしません (ま た、切り替えるべきではありません)。ユーザーに再ログインするよう求めるプロ ンプトが表示されます。場合によっては、予期しないエラーや、対応するデータ 損失が発生する可能性があります。

- Marketing Operations にログインします。「設定」>「構成」を選択し、以下の URL パラメーターを構成して、Marketing Operations サーバーへのすべての参 照でプロキシー・ホストおよびポートが使用されるようにします。
 - Marketing Operations | navigation | serverURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | markup | markupServerURL

 Marketing Operations | umoConfiguration | notifications | notifyPlanBaseURL

WebLogic のガイドライン

WebLogic のクラスターに Marketing Operations をインストールする計画の場 合、追加の手順を実行する必要があります。

インストールの準備

作業を開始する前に、クラスターの WebLogic ドメインを作成する必要がありま す。このステップに関するヘルプについては、WebLogic の資料を参照してくださ い。

データ・ソースの準備

データ・ソースの章では、Marketing Operations 用のデータベースを作成し、その JDBC データ・ソースをアプリケーション・サーバーに構成する手順を示します。 クラスターに対してこれらのタスクを実行するときは、以下に示す追加の指示に注 意してください。

- クラスター内のすべてのマシンで正しい JDBC ドライバーを使用できるように Web アプリケーション・サーバーを構成する必要があります。
- Marketing Platform システム・テーブル (UnicaPlatformDS) のデータ・ソース を管理サーバーとクラスター・メンバーの両方で作成してください。
- Marketing Operations システム・テーブル (plands) のデータ・ソースを作成したら、それを管理サーバーではなく、クラスターに配置します。「クラスター内のすべてのサーバー (All servers in the cluster)」を選択してください。

製品のインストール

インストーラーを実行するときには、必ず、クラスターの管理サーバーとして指定 されているマシンに Marketing Platform および Marketing Operations を 1 回イ ンストールしてください。それぞれのクラスター・メンバーにソフトウェアをイン ストールする必要はありません。その代わりに、管理サーバーでインストールを 1 回実行し、EAR を作成して、その EAR ファイルをそれぞれのクラスター・メンバ ーに配置します。

配置前手順

Marketing Operations を配置する前に、配置前の構成に関する章で記載したタスク に加えて、以下のタスクを実行します。

- Marketing Operations のインストール先の最上位ディレクトリーを共有します。例えば、 Marketing Operations が C:¥Mkt0psCluster¥IBM_IMS¥Marketing0perations というディレクトリーにイン ストールされているとします。この場合は、Mkt0psCluster ディレクトリー全体 を共有します。
- Marketing Operations のアップロード・ファイルを格納するためのフォルダー を管理サーバー上に作成し、共有します。このフォルダーは Shared UMO Artifacts フォルダーと呼ばれます。すべてのクラスター・メンバ

ーは、このフォルダーの完全な制御権 (読み取り、書き込み、変更、および削除) を持っていなければなりません。必要に応じて、このフォルダーをローカル・フ ァイル・システム階層の IBM ホーム・ディレクトリーの下に置くことができま す。

WebLogic でのアプリケーションの配置

配置の章に記載されている説明のほかに、以下に示す追加事項に注意してください。

1. ソース・アクセシビリティー・オプションの設定

EAR を管理サーバーに配置する場合は、「ソース・アクセシビリティー (Source accessibility)」オプションを「配置対象で定義されているデフォルトを使用する (Use the defaults defined by the deployment's targets)」に設定します。

2. JAVA_OPTIONS の設定に関する追加の指示

setenv ファイルの JAVA_OPTIONS プロパティーをクラスター内の各マシンで構成す るのを忘れないでください。

plan.home プロパティーで指定するパスは、共有インストール・ディレクトリーを ポイントしていなければなりません。

クラスターについて設定する追加パラメーターとして、以下の2つがあります。

- -DPLAN CONFIG GUID=Plan
- 通知を送信するべきでないマシンでは、「通知の抑制」パラメーターを次のよう に設定します。

-Dplan.suppressNotifications=true

通知を送信するように指定されたマシンでは、 suppressNotifications プロパ ティーが false に設定されていることを検証してください。他のすべてのマシ ンでは、このプロパティーを true に設定します。

3. 代替 ehcache ファイルの定義

CONF ディレクトリーで定義されている plan_ehcache.xml ファイルは、クラスター 内のすべてのノードで使用されます。ノード上のこのデフォルトのファイルをオー バーライドするには、そのノードで startWeblogic.cmd (Windows の場合) または startWeblogic.sh (UNIX の場合) を編集して、JAVA_OPTIONS プロパティーを 構成します。-plan_ehcache パラメーターを追加して、別の plan_ehcache.xml フ ァイルの場所を指定してください。

セッション管理 Cookie の構成

クラスター内のサーバーで使用されるセッション管理 Cookie の名前を定義するに は、plan.war ファイルを編集します。このファイルは、インストーラーによって作 成され、アプリケーション・サーバーに配置されます。

以下の手順を実行して、セッション管理 Cookie を構成します。

- コマンド・プロンプトを開き、Java のバージョンが Marketing Operations で 使用される JRE と同じであることを確認します。java -version と入力してく ださい。
- 2. plan.war を一時フォルダーにコピーして、元の plan.war ファイルの名前を変 更します。
- 新しい一時アーカイブ plan.war の中身を解凍します。jar -xvf plan.war と入 力してください。
- 4. 解凍済みの plan.war を削除します。rm plan.war と入力してください。
- 5. WEB-INF ディレクトリーに移動します。cd WEB-INF と入力してください。
- 6. web.xml ファイルを編集して、このタグを追加し、Cookie 名をオーバーライド します。

- 7. plan.war を再び圧縮します。cd .. と入力してから、jar -cvf * plan.war と 入力してください。
- 8. 更新した plan.war をコピーしてサーバー上の元の場所に戻します。
- 9. 更新した plan.war を配置します。

配置後の手順

ロード・バランシングのプラグインを使用する場合は、以下の構成手順を実行しま す。

 IBM Marketing Operations がクラスター環境で効率的に動作するためには、ユ ーザーはそのセッションの間ずっと 1 つのノード上にとどまらなければなりま せん。セッション管理およびロード・バランシングのためのこのオプションは、 スティッキー・セッションまたはスティッキー・ロード・バランシングと呼ばれ ます。このオプションを使用するようにインストールを構成する方法について詳 しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

注: この構成オプションを使用するシステムでノードに障害が発生した場合、そのノード上のすべてのユーザー・セッションも障害が発生します。ユーザー認証は Marketing Operations 内の単一ノードにのみ適用されるため、ロード・バランサーは、使用可能な別のノードにユーザーを切り替える必要があります。ユーザーに再ログインするよう求めるプロンプトが表示されます。場合によっては、予期しないエラーや、対応するデータ損失が発生する可能性があります。

- Marketing Operations にログインし、「設定」>「構成」を選択します。
 Marketing Operations サーバーに対するすべての参照でプロキシー・ホストおよびプロキシー・ポートが使用されるようにするため、以下の URL パラメーターを構成します。
 - Marketing Operations | navigation | serverURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | markup | markupServerURL
 - Marketing Operations | umoConfiguration | notifications | notifyPlanBaseURL

共有フォルダー・プロパティーの構成

Shared_UMO_Artifacts フォルダーは共有フォルダーであり、 Marketing Operations を配置する前に作成されます。 Marketing Operations を正常に配置し た後に、すべてのアップロード・ファイルが、Shared_UMO_Artifacts フォルダー内 のサブフォルダーを指していることを確認してください。

以下の手順を実行して、共有フォルダーのプロパティーを設定します。

- 1. ログインして、「設定」>「構成」を選択します。
- 2. 「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「templates」を選択しま す。
- 「設定の編集」をクリックしてから、templatesDir プロパティーの値を更新して、Shared_UMO_Artifacts フォルダーのサブフォルダーをポイントするようにします。
- 4. 変更を保存します。
- 5. 「Marketing Operations」>「umoConfiguration」>「attachmentFolders」を 選択します。
- 「設定の編集」をクリックしてから、このカテゴリーのすべてのプロパティーの 値を更新して、Shared_UMO_Artifacts フォルダーのサブフォルダーをポイント するようにします。
- 7. 変更を保存します。

ehcache の構成

ehcache は、キャッシュ、Java EE、および単純なコンテナー用のオープン・ソース Java 分散キャッシュです。クラスター内のすべてのノードで同じ plan_ehcache.xml ファイルを使用することも、ノードごとに異なる plan_ehcache.xml ファイルを設定することもできます。クラスターでのインストー ルの場合、テンプレートまたは提供フォルダーに変更を加えたときにコンピュータ ーを再始動する必要がないように plan_ehcache.xml ファイルを編集できます。

重要: インストール済み環境が以前のバージョンからアップグレードされたものであ る場合、plan_ehcache.xml ファイルの一部または全部のセクションが存在しないこ とがあります。その場合は、以下のセクションで示されているように、ファイルを 追加および編集してください。

以下のいずれかの手順を使用して、ehcache ファイルを構成します。

リモート・メソッド呼び出し (RMI) による ehcache の構成

通常、以下のトポグラフィーの Marketing Operations システムでは RMI を使用 します。



RMI による ehcache の構成

<IBM_IMS_Home>¥<MarketingOperations_Home>¥conf ディレクトリーに移動して、テ キスト・エディターで plan_ehcache.xml ファイルを開きます。その後、以下の編 集作業を行います。

• ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

太字の項目 (machineA、machineB、およびポート) は、ご使用の環境に合わせ てカスタマイズする必要があります。完全修飾ホスト名を使用して、クラスター 内のすべてのマシンを縦棒 (1) で区切って指定してください。

```
<!--
<cacheManagerPeerProviderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerProviderFactory"
properties="peerDiscovery=manual,
rmiUrls=//<ServerA>:40000/planApplicationCache|//<ServerB>:
40000/planApplicationCache"/>
```

```
<cacheManagerPeerListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerListenerFactory"
properties="port=40000, socketTimeoutMillis=20000"/>
-->
```

ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

```
<!--
<cacheEventListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheReplicatorFactory"
properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
replicateRemovals=true"/>
<cacheEventListenerFactory
class="com.unicacorp.uap.common.cache.PlanCacheEventListenerFactory"
net.sf.ehcache.distribution.RMIBootstrapCacheLoaderFactory" />
-->
```

次の行がファイルに含まれている場合は削除します。

<bootstrapCacheLoaderFactory class=net.sf.ehcache.distribution.
RMIBootstrapCacheLoaderFactory"/>

マルチキャストによる ehcache の構成

通常、以下のトポグラフィーの Marketing Operations システムではマルチキャス トを使用します。



クラスター化トポグラフィー 2: マルチキャストによる ehcache の構成

<*IBM_IMS_Home*>¥<*MarketingOperations_Home*>¥conf ディレクトリーに移動し、テキ スト・エディターで plan_ehcache.xml ファイルを開きます。その後、以下の編集 作業を行います。

• ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

太字の項目 (multicastGroupAddress および multicastGroupPort) は、ご使用の 環境のマルチキャスト・グループおよびポートに合わせてカスタマイズする必要 があります。

```
<!--<cacheManagerPeerProviderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerProviderFactory"
properties="peerDiscovery=automatic, multicastGroupAddress=230.0.0.1,
multicastGroupPort=4446, timeToLive=32"/>
```

<cacheManagerPeerListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheManagerPeerListenerFactory"/>
_->

ファイルの以下のセクションをアンコメントします。

```
<!--
<cacheEventListenerFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMICacheReplicatorFactory"
properties="replicateAsynchronously=true, replicatePuts=true,
replicateUpdates=true, replicateUpdatesViaCopy=true,
replicateRemovals=true"/>
<cacheEventListenerFactory
class="com.unicacorp.uap.common.cache.PlanCacheEventListenerFactory" />
-->
```

• 次の行がファイルに含まれている場合は削除します。

```
<bootstrapCacheLoaderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMIBootstrapCacheLoaderFactory"/>
```

第 10 章 Marketing Operations のアンインストール

Marketing Operations アンインストーラーを実行して、Marketing Operations を アンインストールします。 Marketing Operations アンインストーラーを実行する と、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、 構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイ ルがコンピューターから削除されます。

IBM Marketing Software 製品をインストールする際、アンインストーラーが Uninstall_Product ディレクトリーに組み込まれます。 Product は、IBM 製品の名 前です。 Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削 除」リストへのエントリーの追加も行われます。

アンインストーラーを実行する代わりにインストール・ディレクトリーからファイ ルを手動で削除すると、後で IBM 製品を同じ場所に再インストールする場合にイ ンストールが不完全になってしまう可能性があります。製品をアンインストールし ても、そのデータベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール 中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成ま たは生成されたファイルはいずれも削除されません。

注: UNIX の場合、Marketing Operations をインストールしたものと同じユーザ ー・アカウントがアンインストーラーを実行する必要があります。

- 1. Marketing Operations Web アプリケーションを配置した場合、WebSphere または WebLogic から Web アプリケーションを配置解除します。
- 2. WebSphere または WebLogic をシャットダウンします。
- 3. Marketing Operations に関連するプロセスを停止します。
- 製品インストール・ディレクトリーに ddl ディレクトリーが既存である場合、
 その ddl ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・
 テーブル・データベースからテーブルを削除します。
- 5. 以下のいずれかのステップを実行して Marketing Operations をアンインスト ールします。
 - Uninstall_Product ディレクトリー内にある Marketing Operations アンイ ンストーラーをクリックします。アンインストーラーは、Marketing Operations をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Marketing Operations をアンインストール する場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在 するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_*Product* -i console

 サイレント・モードを使用して Marketing Operations をアンインストール する場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在 するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_Product -i silent

サイレント・モードを使用して Marketing Operations をアンインストール する場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイア ログが表示されません。

注: Marketing Operations のアンインストールに関するオプションを指定しな かった場合、Marketing Operations アンインストーラーは、Marketing Operations のインストール時に使用されたモードで実行されます。

第 11 章 configTool

「構成」ページのプロパティーと値は、Marketing Platform システム・テーブルに 保管されます。configTool ユーティリティーを使用して、構成設定をシステム・テ ーブルにインポートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできま す。

configTool をいつ使用するか

configTool は、次のような目的で使用できます。

- Campaign に備わっているパーティションおよびデータ・ソースのテンプレート をインポートする。その後、構成ページを使って、それの変更および複製を行う ことができます。
- 製品インストーラーがプロパティーをデータベースに自動的に追加できない場合 に IBM Marketing Software 製品を登録する (その構成プロパティーをインポー トする)。
- バックアップ用の構成設定の XML バージョンをエクスポートし、IBM Marketing Software の別のインストールにインポートする。
- 「カテゴリーの削除 (Delete Category)」リンクを持たないカテゴリーを削除する。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリーを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して、編集された XML をインポートします。

重要: このユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブル・データ ベース (構成プロパティーとその値が含まれている) の usm_configuration テーブ ルと usm_configuration_values テーブルを変更します。最良の結果を得るため に、それらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って 既存の構成をエクスポートし、生成されるファイルをバックアップしてください。 そうすることで、configTool を使ったインポートに失敗した場合に構成を復元する ことができます。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]

configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]

configTool -x -p "elementPath" -f exportFile

configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u

productName

コマンド
```

```
-d -p "elementPath" [o]
```

構成プロパティー階層内のパスを指定して、構成プロパティーとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリーおよびプロパティーの内部名が使用されている 必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリーまたはプ ロパティーを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認しま す。| 文字を使って構成プロパティー階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲 みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリーおよびプロパ ティーのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体 を登録解除するには、-u コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴリーを削除するには、-o オプションを使用します。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパ スにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定す る XML ファイルに含まれていない場合)。

-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]

指定された XML ファイルから構成プロパティーとその設定をインポートします。

インポートするには、カテゴリーのインポート先の親要素へのパスを指定します。 configTool ユーティリティーは、パス内で指定するカテゴリーの下にプロパティー をインポートします。

カテゴリーは最上位の下のどのレベルにでも追加することができますが、最上位カ テゴリーと同じレベルにカテゴリーを追加することはできません。

親エレメント・パスには、カテゴリーおよびプロパティーの内部名が使用されてい る必要があります。これらの内部名は、「構成」ページに移動して、必要なカテゴ リーまたはプロパティーを選択し、右側のペインの括弧内に表示されるパスを調べ ることによって得ることができます。 | 文字を使って構成プロパティー階層のパス を区切り、パスを二重引用符で囲みます。

tools/bin ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル場所を指定する か、ディレクトリーの絶対パスを指定することができます。相対パスを指定した場 合、またはパスを指定しない場合、configTool は tools/bin ディレクトリーから 相対的な場所にあるファイルを最初に探します。

デフォルトでこのコマンドは既存のカテゴリーを上書きしませんが、-o オプション を使用して上書きを強制することができます。

-x -p "elementPath" -f exportFile

指定された名前の XML ファイルに構成プロパティーとその設定をエクスポートします。
すべての構成プロパティーをエクスポートすることも、構成プロパティー階層内の パスを指定することによって特定のカテゴリーにエクスポートを制限することもで きます。

要素パスにはカテゴリーおよびプロパティーの内部名を使用する必要があります。 これは、「構成」ページに移動し、必要なカテゴリーまたはプロパティーを選択し て、右側のペインで括弧付きで表示されるパスを見ると分かります。| 文字を使っ て構成プロパティー階層のパスを区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーからの相対的なエクスポート・ファイル場所を指定するか、デ ィレクトリーの絶対パスを指定することができます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX の場合は /、 Windows の場合は / または ¥) が含まれていない場合、 configTool はファイルを Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーの下に作成します。 xml 拡張子を付けない場合、configTool によ ってそれが追加されます。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティーのインポート に使用されます。新しい構成プロパティーが含まれるフィックスパックを適用し、 その後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構 成ファイルをインポートすると、フィックスパックを適用したときに設定された値 がオーバーライドされる場合があります。-vp コマンドを使用すると、インポート を行っても、それ以前に設定された構成値はオーバーライドされません。

重要: configTool ユーティリティーを -vp オプションを指定して使用したら、変更 が適用されるように、Marketing Platform がデプロイされている Web アプリケー ション・サーバーを再始動する必要があります。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパ スにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定す る XML ファイルに含まれていない場合)。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。 tools/bin ディレクトリーに相対する登録ファイ ルの場所を指定することも、絶対パスを指定することもできます。デフォルトでこ のコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用して上書きを強 制することができます。 productName パラメーターは、上記にリストされている名 前のいずれかでなければなりません。

次のことに注意してください。

-r コマンドを使用する際、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして
 <application> を指定する必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティーを挿入するために使用で きる他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。それらのファイ ルについては、-i コマンドを使用します。最初のタグとして <application> タ グがあるファイルだけを -r コマンドとともに使用できます。

- Marketing Platform の登録ファイルの名前は Manager_config.xml で、最初の タグは <Suite> です。新規インストールでこのファイルを登録するには、 populateDb ユーティリティーを使用するか、「*IBM Marketing Platform* インス トール・ガイド」にある説明に従って Marketing Platform インストーラーを再 実行します。
- 最初のインストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、 configTool を -r コマンドおよび -o を指定して実行して、既存のプロパティ ーを上書きします。

configTool ユーティリティーは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラ メーターとして製品名を使用します。 IBM Marketing Software 8.5.0 リリースで は、多くの製品名が変更されました。ただし、configTool によって認識される名前 は変更されていません。configTool で使用できる有効な製品名を、現在の製品名と ともに以下にリストします。

製品名	configTool で使用する名前
Marketing Platform	管理者
Campaign	キャンペーン
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Contact Optimization	Optimize
Marketing Operations	Plan
CustomerInsight	Insight
Digital Analytics for On Premises	NetInsight
Opportunity Detect	Detect
Leads	Leads
IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise	SPSS
Marketing Management Edition	
Digital Analytics	Coremetrics

表 15. configTool 登録および登録解除で使用する製品名

-u productName

productName によって指定されたアプリケーションを登録解除します。製品カテゴ リーにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、それのみで十分です。こ のプロセスで、製品のすべてのプロパティーと構成設定が削除されます。

オプション

-0

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリーまたは製品登録 (ノード) を上 書きします。

-d と共に使用すると、「構成」ページに「カテゴリーの削除」リンクがないカテゴ リー (ノード)を削除することができます。

例

• Marketing Platform インストール済み環境の下の conf ディレクトリーの Product_config.xml という名前のファイルから構成設定をインポートします。

configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml

 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーが完備されている) をエクスポートし、それを partitionTemplate.xml という名前のファイルに 保存し、Marketing Platform インストールのデフォルトの tools/bin ディレク トリーに保管します。

configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f
partitionTemplate.xml

 Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの tools/bin ディ レクトリーにある app_config.xml という名前のファイルを使用して、 productName という名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケ ーションの既存の登録を上書きするように強制します。

configTool -r product Name -f app_config.xml -o

• productName という名前のアプリケーションを登録解除します。

configTool -u productName

第 12 章 IBM Marketing Operations 構成プロパティー

このセクションでは、「設定」>「構成」ページの IBM Marketing Operations 構成プロパティーについて説明します。

Marketing Operations

このカテゴリーのプロパティーは、IBM Marketing Operations インストール済み 環境のデフォルトとサポート対象のロケールを指定します。

supportedLocales

説明

IBM Marketing Operations のインストール済み環境で使用できるロケール を指定します。使用しているロケールだけをリストしてください。リストす るロケールごとにサーバー上のメモリーが使用されます。使用されるメモリ ーの量は、テンプレートのサイズと数によって異なります。

初期インストールまたはアップグレード後にロケールを追加する場合は、ア ップグレード・サーブレットを再実行する必要があります。詳しくは、アッ プグレードの資料を参照してください。

この値を変更した場合、その変更を有効にするには、Marketing Operations 配置を停止し、再始動する必要があります。

デフォルト値

en_US

defaultLocale

説明

IBM Marketing Operations において、Marketing Operations 管理者が特定のユーザーについて明示的にオーバーライドしない限り、すべてのユーザーに対して表示されるサポート・ロケールを指定します。

この値を変更した場合、その変更を有効にするには、Marketing Operations 配置を停止し、再始動する必要があります。

デフォルト値

en_US

Marketing Operations | navigation

このカテゴリーのプロパティーは、Uniform Resource Identifier、URL、ポートな どのナビゲーション用のオプションを指定します。

welcomePageURI

説明

IBM Marketing Operations 索引ページの Uniform Resource Identifier。 この値は、IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使 用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

affiniumPlan.jsp?cat=projectlist

projectDetailpageURI

説明

IBM Marketing Operations 詳細設定ページの Uniform Resource Identifier。この値は、IBM Marketing Software アプリケーションによって 内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

ブランク

seedName

説明

IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使用されま す。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

Plan

type

説明

IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使用されま す。この値を変更することは勧められていません。

デフォルト値

Plan

httpPort

説明

アプリケーション・サーバーで IBM Marketing Operations アプリケーションとの接続に使用されるポート番号。

デフォルト値

7001

httpsPort

説明

アプリケーション・サーバーで IBM Marketing Operations アプリケーションとのセキュア接続に使用されるポート番号。

デフォルト値

7001

serverURL

説明

IBM Marketing Operations インストールの URL。HTTP または HTTPS プロトコルのロケーターを受け入れます。

ユーザーが Chrome ブラウザーを使用して Marketing Operations にアク セスする場合は、URL に完全修飾ドメイン・ネーム (FQDN) を使用しま す。 FQDN を使用しない場合は、Chrome ブラウザーで製品 URL にアク セスできません。

デフォルト値

http://<server>:<port>/plan

注: <server> は小文字にする必要があります。

logoutURL

説明

内部的に使用されます。この値を変更することは勧められていません。

IBM Marketing Platform は、ユーザーがスイートでログアウト・リンクを クリックしたときに、この値を使用して、それぞれの登録済みアプリケーシ ョンのログアウト・ハンドラーを呼び出します。

デフォルト値

/uapsysservlet?cat=sysmodules&func=logout

displayName

説明

内部的に使用されます。

デフォルト値

Marketing Operations

Marketing Operations | バージョン情報

このセクションの構成プロパティーは、IBM Marketing Operations インストール 済み環境に関する情報をリストします。これらのプロパティーは編集できません。

displayName

説明

製品の表示名。

値

IBM Marketing Operations

releaseNumber

説明

```
現在インストールされているリリース。
```

値

<version>.<release>.<modification>

copyright

説明

著作権の年。

値

<year>

os

説明

IBM Marketing Operations がインストールされているオペレーティング・システム。

值 <operating system and version>

java

説明

Java の現在のバージョン。

值 <version>

support

説明

```
文書を読み取り、サービス要求を出します。
```

値

http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request

appServer

説明

値

<IP address>

otherString

説明

値

ブランク

Marketing Operations | umoConfiguration

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations の基本構成についての情報 を指定します。

serverType

説明

```
アプリケーション・サーバー・タイプ。カレンダーのエクスポートに使用さ
れます。
```

有効な値

WEBLOGIC または WEBSPHERE

デフォルト値

<server type>

usermanagerSyncTime

説明

スケジュール設定された IBM Marketing Platform との同期化の時間間隔 (ミリ秒)。

デフォルト値

10800000 (ミリ秒:3時間)

firstMonthInFiscalYear

説明

会計年度が開始する月を設定します。アカウントの「サマリー」タブには、 そのアカウントの各会計年度の月別予算情報をリストした表示専用テーブル があります。このテーブルの最初の月は、このパラメーターによって決まり ます。

1 月は 0 で表されます。会計年度が 4 月に始まるようにするには、 firstMonthInFiscalYear を 3 に設定します。

有効な値

0から11の整数

デフォルト値

0

maximumItemsToBeRetainedInRecentVisits

説明

「最近使用した項目」メニューに表示する、最近表示したページへのリンク の最大数。

デフォルト値

10 (リンク)

maxLimitForTitleString

説明

ページ・タイトルに表示できる最大文字数。指定された文字数よりもタイト ルが長い場合、IBM Marketing Operations はタイトルを切り取って短くし ます。 デフォルト値

40 (文字)

maximumLimitForBulkUploadItems

説明

同時にアップロードできる添付ファイルの最大数。

デフォルト値

5 (添付ファイル)

workingDaysCalculation

説明

IBM Marketing Operations が期間を計算する方法を制御します。

有効な値

- bus: 営業日のみ、営業日のみを含みます。休日も週末も含まれません。
- wkd: 営業日 + 週末、営業日と週末を含みます。休日は含まれません。
- off: 営業日 + 休日、すべての営業日と休日を含みます。週末は含まれません。
- **すべて**: カレンダーのすべての日が含まれます。

デフォルト値

all

validateAllWizardSteps

説明

ユーザーがウィザードを使用してプログラム、プロジェクト、または要求を 作成するときに、IBM Marketing Operations によって、現行ページの必須 フィールドに値が設定されているかどうかが自動的に検証されます。このパ ラメーターは、ユーザーが「終了」をクリックしたときに、Marketing Operations がすべてのページ (タブ)の必須フィールドを検証するかどうか を制御します。

有効な値

- True: Marketing Operations は、ユーザーが表示しなかったページの必須フィールドを検査します (ワークフロー、トラッキング、添付ファイルを除く)。必須フィールドがブランクの場合、ウィザードはそのページを開き、エラー・メッセージを表示します。
- False: Marketing Operations は、ユーザーが表示しなかったページの必須フィールドを検証しません。

デフォルト値

True

enableRevisionHistoryPrompt

説明

ユーザーがプロジェクト、要求、または承認を保存するときに変更コメント を追加するよう求めるプロンプトが出るようにします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

useForecastDatesInTaskCalendar

説明

```
タスクがカレンダー・ビューに表示されるときに使用される日付のタイプを
指定します。
```

有効な値

- True: 予測/実際の日付を使用してタスクを表示します。
- False: ターゲット日を使用してタスクを表示します。

デフォルト値

False

copyRequestProjectCode

説明

プロジェクト・コード (PID) を要求からプロジェクトに引き継ぐかどうか を制御します。このパラメーターを False に設定した場合、プロジェクト と要求は、異なるコードを使用します。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

projectTemplateMonthlyView

説明

プロジェクト・テンプレートのワークフローで月次ビューが許可されるかど うかを制御します。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

disableAssignmentForUnassignedReviewers

説明

承認のために作業を役割別に割り当てる方法を指定します。 disableAssignmentForUnassignedReviewers パラメーターは、「スタッフ」 タブにある「役割別に作業を割り当て」の、ワークフロー承認における承認 者の割り当てに関する動作を制御します。

有効な値

- True: 「スタッフ」タブにおいて未割り当てのレビュー担当者は、新しい ステップとして承認に追加されません。
 - 追加オプション:所有者によって割り当てられた既存の承認者で、割り当てられた役割を持たないものは、変更されません。「スタッフ」 タブに役割が「未割り当て」のレビュー担当者が存在しても、新しい 承認者ステップは追加されません。
 - 置換オプション:所有者によって割り当てられた既存の承認者で、役割を持たないものは、ブランクに置き換えられます。「スタッフ」タブに役割が「未割り当て」のレビュー担当者が存在しても、新しい承認者ステップは追加されません。
- False: 未割り当てのレビュー担当者は、承認に追加されます。
 - 追加オプション: 定義された役割がない所有者割り当てステップが承認に存在する場合は、役割を持たないすべてのレビュー担当者が、レビュー担当者として承認に追加されます。
 - 置換オプション:承認における既存の承認者は、「スタッフ」タブの
 未割り当て承認者に置き換えられます。

デフォルト値

False

enableApplicationLevelCaching

説明

アプリケーション・レベルのキャッシングを有効にするかどうかを示しま す。キャッシング・メッセージのマルチキャストが有効になっていないクラ スター環境で最良の結果を得るには、Marketing Operations のアプリケー ション・レベルのキャッシングをオフにすることを検討してください。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

customAccessLevelEnabled

説明

カスタム・アクセス・レベル (プロジェクトの役割) を IBM Marketing Operations で使用するかどうかを決定します。

有効な値

 True: プロジェクトおよび要求に対するユーザー・アクセスは、オブジェ クト・アクセス・レベルおよびカスタム・アクセス・レベル (プロジェク トの役割) に従って評価されます。カスタム・タブのタブ・セキュリティ ーが有効になります False: プロジェクトおよび要求へのユーザー・アクセスは、オブジェクト・アクセス・レベル (オブジェクトの暗黙の役割)のみに従って評価され、カスタム・タブのタブ・セキュリティーは無効になります。

デフォルト値

True

enableUniqueIdsAcrossTemplatizableObjects

説明

プログラム、プロジェクト、計画、請求書を含むテンプレートから作成され たすべてのオブジェクトにおいて、固有の内部 ID を使用するかどうかを決 定します。

有効な値

- True に設定すると、テンプレートから作成されたすべてのオブジェクト において固有の内部 ID を使用できます。この構成を使用すると、オブ ジェクト・タイプが異なる場合でも、同じテーブルをシステムが使用で きるようになるため、オブジェクトをまたがるレポート作成が簡単にな ります。
- False に設定すると、テンプレートから作成されたすべてのオブジェクトにおいて固有の内部 ID を使用できなくなります。

デフォルト値

True

FMEnabled

説明

財務管理モジュールを有効または無効にします。これにより、製品に「アカ ウント」、「請求書」、および「予算」のタブが表示されるかどうかが決ま ります。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

FMProjVendorEnabled

```
説明
```

プロジェクト明細項目のベンダー列の表示/非表示を指定するためのパラメ ーター。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

FMPrgmVendorEnabled

説明

```
プログラム明細項目のベンダー列の表示/非表示を指定するためのパラメー
ター。
有効な値
True | False
デフォルト値
False
```

Marketing Operations | umoConfiguration | Approvals

これらのプロパティーは、承認に関するオプションを指定します。

specifyDenyReasons

説明

承認を拒否する理由のカスタマイズ可能なリストを有効にします。有効にさ れると、管理者は「承認拒否理由」リストにオプションを設定してから、拒 否理由を各ワークフロー・テンプレートおよびワークフローを定義する各プ ロジェクト・テンプレートに関連付けます。承認または承認に含まれる項目 を拒否するユーザーは、事前定義されたこれらの理由のいずれかを選択する 必要があります。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

10.0.0.2

approveWithChanges

説明

承認のための「変更付きで承認」オプションを有効にします。これを有効に すると、ユーザーがプロジェクト・テンプレートやプロジェクトで承認をセ ットアップする際や、スタンドアロンの承認をセットアップする際に、 「承認者が変更付きで承認することを許可する」オプションがデフォルトで 選択されます。「承認者が変更付きで承認することを許可する」オプション は、overrideApproveWithChanges プロパティーが True に設定されてい る場合に編集可能になります。

承認のセットアップ時に「承認者が変更付きで承認することを許可する」オ プションが選択された場合、承認者は「変更付きで承認」オプションを選択 することでタスクを承認できます。

有効な値

True | False

デフォルト値

True

10.0.0.2

overrideApproveWithChanges

説明

これが True に設定されている場合、ユーザーはプロジェクト・テンプレー トやプロジェクトで承認をセットアップする際や、スタンドアロンの承認を セットアップする際に、「承認者が変更付きで承認することを許可する」 オプションのデフォルト設定を編集することができます。デフォルトの設定 値は「approveWithChanges」プロパティーによって決定されます。

```
有効な値
```

True | False

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | templates

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations におけるテンプレートについての情報を指定します。最良の結果を得るには、これらのパラメーターのデフォルト値を変更しないでください。

templatesDir

説明

すべてのプロジェクト・テンプレート定義を格納する XML ファイルを入れるためのディレクトリーを指定します。

絶対パスを使用してください。

デフォルト値

<IBM_IMS_Home>/<MarketingOperations_Home>/templates

assetTemplatesFile

説明

資産のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

asset_templates.xml

planTemplatesFile

説明

計画のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

```
デフォルト値
```

plan_templates.xml

programTemplatesFile

説明

プログラムのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

program_templates.xml

projectTemplatesFile

説明

プロジェクトのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイル は、templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

project_templates.xml

invoiceTemplatesFile

説明

請求書のテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

invoice_templates.xml

componentTemplatesFile

説明

カスタム・マーケティング・オブジェクト・タイプのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

component_templates.xml

metricsTemplateFile

説明

メトリックのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

デフォルト値

metric_definition.xml

teamTemplatesFile

説明

チームのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

```
デフォルト値
```

team_templates.xml

offerTemplatesFile

説明

オファーのテンプレートを定義する XML ファイル。このファイルは、 templatesDir で指定されたディレクトリー内にあることが必要です。

```
デフォルト値
```

uap_sys_default_offer_comp_type_templates.xml

Marketing Operations | umoConfiguration | attachmentFolders

これらのプロパティーは、添付ファイルのアップロードと保管に使用するディレクトリーを指定します。

uploadDir

説明

プロジェクトの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/projectattachments

planUploadDir

説明

```
計画の添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/planattachments

programUploadDir

説明

```
プログラムの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/programattachments

componentUploadDir

説明

マーケティング・オブジェクトの添付ファイルが保管されるアップロード・ ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/componentattachments

taskUploadDir

説明

```
タスクの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

```
デフォルト値
```

```
<MarketingOperations Home>/taskattachments
```

approvalUploadDir

説明

承認項目が保管されるアップロード・ディレクトリー。

```
デフォルト値
```

<MarketingOperations_Home>/approvalitems

assetUploadDir

説明

資産が保管されるアップロード・ディレクトリー。

```
デフォルト値
```

<MarketingOperations_Home>/assets

accountUploadDir

説明

```
アカウントの添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

```
デフォルト値
```

<MarketingOperations_Home>/accountattachments

invoiceUploadDir

説明

```
請求書の添付ファイルが保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

```
デフォルト値
```

<MarketingOperations_Home>/invoiceattachments

graphicalRefUploadDir

説明

属性イメージが保管されるアップロード・ディレクトリー。

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/graphicalrefimages

templateImageDir

説明

テンプレート・イメージが保管されるアップロード・ディレクトリー。 デフォルト値 <MarketingOperations_Home>/images

recentDataDir

説明

```
各ユーザーの最近のデータ (直列化済み) を保管する一時ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/recentdata

workingAreaDir

説明

```
グリッドのインポート時にアップロードされた CSV ファイルを保管する一
時ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/umotemp

managedListDir

説明

```
管理対象のリスト定義が保管されるアップロード・ディレクトリー。
```

デフォルト値

<MarketingOperations_Home>/managedList

Marketing Operations | umoConfiguration | fileUpload

このカテゴリーのプロパティーは、ファイルのアップロードに関するオプションを 指定します。

validateFileUpload

説明

アップロードするファイルを検証する場合は True を選択し、アップロード するファイルを検証しない場合は False を選択します。

allowedFileTypes

説明

アップロードを許可するファイルのタイプ。指定可能なファイル・タイプ は、.doc、 .ppt、.xls、.pdf、.gif、.jpeg、.png、および .mpp です。

fileMaxSize

説明

アップロードするファイルの最大許容サイズ。

Marketing Operations | umoConfiguration | Email

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations における E メール通知の送 信に関する情報を指定します。

notifyEMailMonitorJavaMailHost

説明

E メール通知メール・サーバーの DNS ホスト名またはそのドット形式の IP アドレスのいずれかを指定するストリング (オプション)。 SMTP サー バーのマシン名または IP アドレスに設定されます。

セッション・パラメーターを使用する既存の JavaMail セッションを IBM Marketing Operations に提供しておらず、委任が「完了」とマークされている場合は、このパラメーターが必要です。

デフォルト値

[CHANGE-ME]

notifyDefaultSenderEmailAddress

説明

有効な E メール・アドレスを設定します。システムは、通知 E メール・ メッセージを送信するための有効な E メール・アドレスがない場合には、 このアドレスに E メール・メッセージを送信します。

デフォルト値

[CHANGE-ME]

notifySenderAddressOverride

説明

このパラメーターを使用して、通知における「返信」および「差出人」の E メール・アドレスの標準値を指定します。デフォルトでは、これらのアドレ スには、イベント所有者の E メール・アドレスが設定されます。

デフォルト値

ブランク

Marketing Operations | umoConfiguration | markup

これらのプロパティーは、マークアップ・オプションを指定します。IBM Marketing Operations には、添付ファイルのコメントを作成するためのマークアッ プ・ツールが用意されています。Adobe Acrobat マークアップまたはネイティブ Marketing Operations マークアップのいずれかを使用できます。使用するオプショ ンを構成するには、このカテゴリーのプロパティーを使用します。

markupServerType

説明

使用するマークアップ・オプションを決定します。

有効な値

 SOAP を指定すると、ユーザーは PDF 文書のマークアップを編集および 表示できます。マークアップには Adobe Acrobat Professional が必要 です。これを指定した場合、ユーザーはネイティブ Marketing Operations メソッドを使用して Web ブラウザーで以前に作成されたマ ークアップを表示できません。

SOAP を指定する場合は、markupServerURL パラメーターも構成する必要 があります。

SOAP を指定する場合は、Adobe Acrobat がインストールされているデ ィレクトリーの JavaScripts サブディレクトリーにコピーされたカスタ マイズ済み UMO_Markup_Collaboration.js を削除する必要があります。 例: C:¥Program files (x86)¥Adobe¥Acrobat 10.0¥Acrobat¥Javascripts¥UMO_Markup_Collaboration.js。このファイ ルは不要になりました。

- MCM を指定すると、ユーザーが Web ブラウザーでマークアップを編集 および表示できるネイティブ Marketing Operations マークアップ・メ ソッドを使用できます。これを指定した場合、ユーザーは、以前に Adobe Acrobat を使用して PDF で作成されたマークアップを編集する ことも表示することもできません。
- ブランクの場合、マークアップ機能は無効になり、「マークアップの表示/追加」リンクは表示されません。

デフォルト値

МСМ

markupServerURL

説明

markupServerType = SOAP に依存します。

マークアップ・サーバーをホストするコンピューターの URL を設定します (Web アプリケーション・サーバーが listen に使用するポートの番号を含 みます)。この URL には、完全修飾ホスト名が含まれていなければなりま せん。

HTTP または HTTPS プロトコルのロケーターを受け入れます。

デフォルト値

http://<server>:<port>/plan/services/collabService?wsdl

instantMarkupFileConversion

説明

True の場合、IBM Marketing Operations は、ユーザーがマークアップの 項目を初めて開くときに PDF 添付資料からイメージへの変換を実行するの ではなく、PDF 添付資料がアップロードされるとすぐにこの変換を実行し ます。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | grid

これらのプロパティーは、グリッドに関するオプションを指定します。

gridmaxrow

説明

グリッドで取得される最大行数を定義する整数 (オプション)。デフォルトの -1 の場合は、すべての行が取得されます。

デフォルト値

-1

reloadRuleFile

説明

グリッド検証プラグインを再ロードする必要があるかどうかを示すブール・ パラメーター (オプション)。

有効な値

True | False

```
デフォルト値
```

True

gridDataValidationClass

説明

カスタム・グリッド・データ検証クラスを指定するパラメーター (オプション)。指定しない場合は、デフォルトの組み込みプラグインがグリッド・デ ータ検証に使用されます。

デフォルト値

ブランク

tvcDataImportFieldDelimiterCSV

説明

グリッドにインポートされたデータの解析に使用する区切り文字。デフォル トはコンマ (,) です。

デフォルト値

, (コンマ)

maximumFileSizeToImportCSVFile

説明

TVC のコンマ区切りデータをインポートするときにアップロードできる最 大ファイル・サイズ (MB) を表します。 デフォルト値

0 (無制限)

maximumRowsToBeDisplayedPerPageInGridView

説明

グリッド・ビューの1ページ当たりの表示行数を指定します。

有効な値

正整数

デフォルト値

100

griddataxsd

説明

グリッド・データ XSD ファイルの名前。

デフォルト値

griddataschema.xsd

gridpluginxsd

説明

グリッド・プラグイン XSD ファイルの名前。

デフォルト値

gridplugin.xsd

gridrulesxsd

説明

グリッド・ルール XSD ファイルの名前。

デフォルト値

gridrules.xsd

Marketing Operations | umoConfiguration | workflow

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations におけるワークフローについてのオプションを指定します。

hideDetailedDateTime

説明

```
タスク・ページにおける詳細な日時のパラメーターの表示/非表示パラメー
ター (オプション)。
```

有効な値

True | False

False

daysInPastRecentTask

説明

このパラメーターは、タスクが「最新」と見なされる期間を決めます。タス クが「アクティブ」であり、開始されてからの期間がこの日数未満である か、またはタスクの「ターゲット終了日」が現在日付とこの日数前の日付と の間にある場合、そのタスクは最新のタスクとして表示されます。

有効な値

正整数

デフォルト値

14 (日)

daysInFutureUpcomingTasks

説明

このパラメーターは、将来の何日間について次回のタスクを検索するかを決定します。タスクが次の daysInFutureUpcomingTasks の期間に開始する場合、または現在日付の前に終了しない場合、そのタスクは次回のタスクとなります。

有効な値

正整数

デフォルト値

14 (日)

beginningOfDay

説明

```
営業日の始業時間。このパラメーターは、小数形式の期間を使用したワーク
フローの日時の計算に使用されます。
```

有効な値

0から12の整数

デフォルト値

9 (9 AM)

numberOfHoursPerDay

説明

1 日当たりの時間数。このパラメーターは、小数形式の期間を使用したワー クフローの日時の計算に使用されます。

有効な値

1から24の整数

デフォルト値

8 (時間)

mileStoneRowBGColor

説明

ワークフロー・タスクの背景色を定義します。この値を指定するには、色を 表す 6 文字の 16 進コードの前に # 文字を挿入します。例えば、#0099CC と指定します。

デフォルト値

#DDDDDD

Marketing Operations | umoConfiguration | integrationServices

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations 統合サービス・モジュール についての情報を指定します。統合サービス・モジュールは、Marketing Operations の機能を Web サービスとトリガーを使用して拡張します。

enableIntegrationServices

説明

統合サービス・モジュールを有効および無効にします。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

integrationProcedureDefinitionPath

説明

```
カスタム・プロシージャー定義 XML ファイルへの絶対ファイル・パス (オ
プション)。
```

デフォルト値

[plan-home]/devkits/integration/examples/src/procedure/procedureplugins.xml

integrationProcedureClasspathURL

説明

カスタム・プロシージャーのクラスパスへの URL。

デフォルト値

file:///[plan-home]/devkits/integration/examples/classes/

Marketing Operations | umoConfiguration | campaignIntegration

このカテゴリーのプロパティーは、 Campaign 統合のオプションを指定します。

defaultCampaignPartition

説明

IBM Marketing Operations が IBM Campaign と統合されていると、この パラメーターは、プロジェクト・テンプレートに campaign-partition-id が 定義されていない場合にデフォルトの Campaign パーティションを指定し ます。

デフォルト値

partition1

webServiceTimeoutInMilliseconds

説明

```
Web サービス統合 API 呼び出しに追加されます。このパラメーターは、
Web サービス API 呼び出しのタイムアウトとして使用されます。
```

```
デフォルト値
```

1800000 ミリ秒 (30 分)

Marketing Operations | umoConfiguration | reports

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations が使用するレポートについ ての情報を指定します。

reportsAnalysisSectionHome

説明

```
分析セクション・レポートのホーム・ディレクトリーを示します。
```

デフォルト値

/content/folder[@name='Affinium Plan']

reportsAnalysisTabHome

説明

```
分析タブ・レポートのホーム・ディレクトリーを示します。
```

デフォルト値

/content/folder[@name='Affinium Plan - Object Specific Reports']

cacheListOfReports

説明

このパラメーターは、オブジェクト・インスタンスの分析ページにおけるレ ポート・リストのキャッシングを有効にします。

有効な値

True | False デフォルト値 False

Marketing Operations | umoConfiguration | invoiceRollup

このカテゴリーのプロパティーは、請求書ロールアップのオプションを指定します。

invoiceRollupMode

説明

ロールアップがどのように発生するかを指定します。許容値は以下のとおり です。

有効な値

- immediate: 請求書が支払い済みとマークされるたびに、ロールアップが 発生します。
- schedule: スケジュールに基づいてロールアップが発生します。

このパラメーターが schedule に設定されると、システムは以下のパラ メーターを使用して、ロールアップ発生のタイミングを決定します。

- invoiceRollupScheduledStartTime
- invoiceRollupScheduledPollPeriod

デフォルト値

immediate

invoiceRollupScheduledStartTime

説明

invoiceRollupMode が schedule である場合、このパラメーターは以下のように使用されます。

- このパラメーターに値 (例えば、11:00 pm) が含まれている場合、その 値は、スケジュールが開始するための開始時刻となります。
- このパラメーターが未定義の場合は、サーバーの始動時にロールアップ・スケジュールが開始します。

invoiceRollupMode が immediate である場合、このパラメーターは使用されません。

デフォルト値

11:00 pm

invoiceRollupScheduledPollPeriod

説明

invoiceRollupMode が schedule である場合、このパラメーターは、ロール アップが発生するためのポーリング期間 (秒) を指定します。

invoiceRollupMode が immediate である場合、このパラメーターは使用されません。

デフォルト値

3600 (1 時間)

Marketing Operations | umoConfiguration | database

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations に使用するデータベースに ついての情報を指定します。

fileName

説明

JNDI 検索を使用してデータ・ソースをロードするためのファイルへのパス。

デフォルト値

plan_datasources.xml

sqlServerSchemaName

説明

使用するデータベース・スキーマを指定します。このパラメーターは、IBM Marketing Operations データベースに SQL Server を使用している場合に のみ適用されます。

デフォルト値

dbo

db2ServerSchemaName

重要: このパラメーター用に提供されたデフォルト値を変更することは勧められてい ません。

説明

IBM Marketing Software アプリケーションによって内部的に使用されます。

デフォルト値

ブランク

thresholdForUseOfSubSelects

説明

ここで指定したレコード数を超えると、(リスト・ページの) SQL の IN 節 で、IN 節内の実際のエンティティー ID の代わりに副照会を使用する必要 があります。このパラメーターを設定すると、大規模なアプリケーション・ データ・セットが含まれる IBM Marketing Operations インストール済み 環境のパフォーマンスが向上します。ベスト・プラクティスとして、パフォ ーマンスの問題が発生しない限りこの値を変更しないでください。このパラ メーターがないか、あるいはコメント化されている場合、データベースは、 しきい値が大きな値に設定されるかのように動作します。

commonDataAccessLayerFetchSize

説明

このパラメーターは、パフォーマンスに影響されやすい特定の重要な照会に ついて、結果セットの取り出しサイズを指定します。

デフォルト値

0

commonDataAccessLayerMaxResultSetSize

説明

このパラメーターは、パフォーマンスに影響されやすい特定の重要な照会に ついて、結果セットの最大サイズを指定します。

デフォルト値

-1

useDBSortForAllList

説明

このパラメーターは、すべての IBM Marketing Operations リスト・ハン ドラーを構成するために使用されます。特定のリストのページング動作をオ ーバーライドするには、別の useDBSortFor<module>List パラメーターを使 用します。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForPlanList

説明

このパラメーターは、計画リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForProjectList

説明

このパラメーターは、プロジェクト・リスト・ハンドラーを構成するために 使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForTaskList

説明

このパラメーターは、タスク・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForProgramList

説明

このパラメーターは、プログラム・リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForApprovalList

説明

このパラメーターは、承認リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForInvoiceList

説明

このパラメーターは、請求書リスト・ハンドラーを構成するために使用されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

useDBSortForAlerts

説明

このパラメーターは、アラート・リスト・ハンドラーを構成するために使用 されます。

有効な値

- True: データベースから一度に 1 ページのリスト・データを取得しま す。
- False: すべてのリスト・データをキャッシュに入れます。

デフォルト値

True

Marketing Operations | umoConfiguration | listingPages

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations のページ上におけるマーケ ティング・オブジェクトやマーケティング・プロジェクトなどのリスト項目につい ての情報を指定します。

listItemsPerPage

説明

1 つのリスト・ページに表示される項目 (行)の数を指定します。この値 は、0 より大きくする必要があります。

デフォルト値

10

listPageGroupSize

説明

リスト・ページのリスト・ナビゲーターに表示されるページ番号のサイズを 指定します。例えば、ページ1-5は、ページ・グループです。この値 は、0より大きくする必要があります。

maximumItemsToBeDisplayedInCalendar

説明

カレンダーに表示されるオブジェクト (計画、プログラム、プロジェクト、 またはタスク) の最大数。このパラメーターは、ユーザーがカレンダー・ビ ューを選択した場合に表示するオブジェクトの数を制限します。数値 0 は、制限がないことを示します。

デフォルト値

0

listDisplayShowAll

説明

リスト・ページに「すべて表示」リンクを表示します。

デフォルト値

False

有効な値

True | False

Marketing Operations | umoConfiguration | objectCodeLocking

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations における計画、プログラ ム、プロジェクト、資産、およびマーケティング・オブジェクトのオブジェクト・ ロックについての情報を指定します。

enablePersistentObjectLock

説明

IBM Marketing Operations がクラスター環境に配置されている場合は、このパラメーターを True に設定する必要があります。データベースにおいて オブジェクト・ロック情報は永続的です。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

lockProjectCode

説明

ユーザーがプロジェクトの「サマリー」タブでプロジェクト・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

True

lockProgramCode

説明

ユーザーがプログラムの「サマリー」タブでプログラム・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockPlanCode

説明

ユーザーが計画の「計画サマリー」タブで計画コードまたは PID を編集で きるかどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockMarketingObjectCode

説明

```
ユーザーがマーケティング・オブジェクトの「サマリー」タブでマーケティ
ング・オブジェクト・コードまたは PID を編集できるかどうかを決定しま
す。
```

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

デフォルト値

True

lockAssetCode

説明

ユーザーが資産の「サマリー」タブで資産コードまたは PID を編集できる かどうかを決定します。

有効な値

- True: ロックを有効にします。
- False: ロックを無効にします。

Marketing Operations | umoConfiguration | thumbnailGeneration

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations がサムネールを生成する方 法とタイミングについての情報を指定します。

trueTypeFontDir

説明

True Type フォントが存在するディレクトリーを指定します。このパラメ ーターは、Aspose を使用する非 Windows オペレーティング・システムで サムネールを生成する場合には必須です。Windows インストール済み環境 の場合、このパラメーターはオプションです。

デフォルト値

ブランク

coreThreadPoolSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・プールに保持される永 続スレッド数を指定します。

デフォルト値

5

maxThreadPoolSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・プールで許可される最 大スレッド数を指定します。

デフォルト値

10

threadKeepAliveTime

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのキープアライブ時間を構成するた めのパラメーター。

デフォルト値

60

threadQueueSize

説明

サムネール・ジェネレーター・スレッドのスレッド・キュー・サイズを構成 するためのパラメーター。

20

disableThumbnailGeneration

説明

アップロードされた文書のためにサムネール・イメージを生成するかどうか を決めます。値 True は、サムネールの生成を有効にします。

デフォルト値

False

有効な値

True | False

markupImgQuality

説明

レンダリングされるページに適用される拡大率またはズーム係数。

デフォルト値

1

Marketing Operations | umoConfiguration | Scheduler | intraDay

このプロパティーは、対象日におけるスケジューラーの実行頻度を指定します。

schedulerPollPeriod

説明

バッチ・ジョブが、プロジェクトの正常性ステータスの実行を毎日計算する 際の頻度を秒数で定義します。

注:日次のバッチ・ジョブだけが、レポートで使用されるプロジェクトの正 常性ステータスの履歴を更新します。

デフォルト値

60 (秒)

Marketing Operations | umoConfiguration | Scheduler | daily

このプロパティーは、スケジューラーの毎日の開始時刻を指定します。

schedulerStartTime

説明

プロジェクトの正常性ステータスを計算するバッチ・ジョブの開始時刻を定 義します。このジョブは、以下のことも行います。

- レポートで使用されるプロジェクトの正常性ステータスの履歴を更新します。
- E メール通知を配信登録しているユーザーへの配布を開始します。

注: システムがこのバッチ・ジョブを開始するのは、計算がまだ実行されて いない場合だけです。ジョブが intraDay パラメーターとは異なる時刻に、 そしてユーザーがこの計算を手動で要求する可能性の低い時刻に開始するよ うに、このパラメーターを定義してください。

```
デフォルト値
```

11:00 pm

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications

これらのプロパティーは、イベント・モニターについての情報を含む、IBM Marketing Operationsにおける通知に関する情報を指定します。

notifyPlanBaseURL

説明

IBM Marketing Operations 配置の URL (ホスト名とポート番号を含む)。 Marketing Operations では、Marketing Operations 内の他の情報へのリン クを含む通知に、この URL が組み込まれます。

注: メール・クライアントと IBM Marketing Operations サーバーを同じ サーバー上で実行している場合以外は、「localhost」をサーバー名として使 用しないでください。

デフォルト値

http://<server>:<port>/plan/affiniumplan.jsp

notifyDelegateClassName

説明

サービスによってインスタンス化される委任実装の完全修飾 Java クラス 名。このクラスは、com.unicacorp.afc.service.IServiceImpl インターフ ェースを実装する必要があります。指定しない場合は、デフォルトでローカ ル実装になります。

デフォルト値

ブランク

notifyIsDelegateComplete

説明

委任実装が完了したかどうかを示すブール・ストリング (オプション)。指定 しない場合は、デフォルトで True に設定されます。

デフォルト値

True

有効な値

True | False
notifyEventMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めてイベント通知モニターの処理 が開始される時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:45 pm な どが考えられます。

デフォルト値

ブランク (Marketing Operations の始動直後)。

notifyEventMonitorPollPeriod

説明

イベント・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよそ の時間 (秒)を定義します。ポーリング期間とポーリング期間の間、イベン トはイベントキューに累積されます。ポーリング期間が短いほど通知の処理 が早く行われますが、システムのオーバーヘッドが大きくなる場合がありま す。既定値を削除して値をブランクのままにすると、ポーリング期間はデフ ォルトで短時間 (通常は 1 分未満) に設定されます。

デフォルト値

5 (秒)

notifyEventMonitorRemoveSize

説明

1回でキューから削除するイベント数を指定します。 イベント・モニター は、イベント・キューからイベントを、この値で指定された数ずつキューが 空になるまで削除します。

注: イベント処理のパフォーマンスを向上させるために、この値を 1 以外 の数に設定することもできます。ただし、削除されたイベントが処理される 前にサービス・ホストがダウンした場合にイベントが失われる恐れがありま す。

デフォルト値

10

alertCountRefreshPeriodInSeconds

説明

アラート数に関するシステム全体のアラート数リフレッシュ期間 (秒) を指定します。この数は、ユーザーのログイン後にナビゲーション・バーの上部 付近に表示されます。

注: マルチユーザー環境では、リフレッシュ期間を変更してポーリングを高 速にすると、パフォーマンスに影響が出る場合があります。

デフォルト値

180 (3 分)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | Email

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operationsにおける E メール通知につ いての情報を指定します。

notifyEMailMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて E メール・モニターが処理 を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。

デフォルト値

ブランク (IBM Marketing Operationsの始動直後)。

notifyEMailMonitorPollPeriod

説明

E メール・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を定義します。

注: イベントと同様に、ポーリング期間とポーリング期間の間、E メール・ メッセージはキューに累積されます。ポーリング時間が短いほど E メー ル・メッセージが早く送信されますが、システムのオーバーヘッドが大きく なる場合があります。

デフォルト値

60 (秒)

notifyEMailMonitorJavaMailSession

説明

E メール通知に使用する、既存の初期化済み JavaMail セッションの JNDI 名。これが未指定であり、委任が「完了」とマークされている場合は、IBM Marketing Operations がセッションを作成できるように JavaMail ホス ト・パラメーターを指定する必要があります。

デフォルト値

ブランク

notifyEMailMonitorJavaMailProtocol

説明

E メール通知に使用するメール・サーバー・トランスポート・プロトコルを 指定します。

デフォルト値

smtp

notifyEMailMonitorRemoveSize

説明

1 回にキューから削除する E メール・メッセージ数を指定します。E メー ル・モニターは、E メール・キューからメッセージを、この値で指定された 数ずつ削除し、これをキューが空になるまで続けます。

注: E メール処理のパフォーマンスを向上させるために、この値を 1 以外 の数に設定することもできます。ただし、削除された E メール・メッセー ジが処理される前にサービス・ホストがダウンした場合、メッセージが失わ れる恐れがあります。

デフォルト値

10 (メッセージ)

notifyEMailMonitorMaximumResends

説明

最初の送信試行が失敗した E メール・メッセージの送信を試行する最大回 数を指定します。送信が失敗した場合、E メールは、このパラメーターで許 可される最大試行回数に到達するまでキューに戻されます。

例えば、notifyEMailMonitorPollPeriod が 60 秒ごとにポーリングするよう設定されているとします。 notifyEMailMonitorMaximumResends プロパティーを試行回数 60 に設定すると、E メール・モニターは失敗したメッセージをポーリングごと (つまり毎分) に 1 回、最大 1 時間、再試行を試みます。値 1440 (24x60) を設定した場合、E メール・モニターは、1 分間隔で最大 24 時間試行します。

デフォルト値

1 (試行)

showUserNameInEmailNotificationTitle

説明

IBM Marketing Operations 通知およびアラート・システムで、E メール通知の「差出人」フィールドにユーザー名を入れるかどうかを指定します。

注: この設定は、IBM Marketing Operations の通知およびアラート・シス テムによって送信される E メール・メッセージにのみ適用されます。

有効な値

- True: Marketing Operations はメッセージ・タイトルの後ろにユーザー 名を追加し、その両方を E メールの「差出人」フィールドに表示しま す。
- False: Marketing Operations はメッセージ・タイトルのみを「差出 人」フィールドに表示します。

デフォルト値

False

notifyEMailMonitorJavaMailDebug

説明

```
JavaMail デバッグ・モードを設定するかどうかを指定します。
```

有効な値

- True: JavaMail デバッグを有効にします。
- False:デバッグ・トレースを無効にします。
- デフォルト値

False

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | project

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operationsにおけるプロジェクト・アラ ームについての情報を指定します。

notifyProjectAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めてプロジェクト・アラーム・モ ニターが実行される時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。デフォルトを削除し、値をブランクのままにすると、こ のモニターは、作成された直後に開始します。

デフォルト値

10:00 pm

notifyProjectAlarmMonitorPollPeriod

説明

プロジェクト・アラーム・モニターおよびプログラム・アラーム・モニター がポーリングとポーリングの間にスリープするおおよその時間 (秒) を定義 します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyProjectAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

プロジェクトの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザ ーに通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信し ません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProjectAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

プロジェクトの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザ ーに終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信し ません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledStartCondition

説明

タスクの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザー開始 通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledEndCondition

説明

タスクの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終 了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskLateCondition

説明

タスクの開始日の何日後に、IBM Marketing Operations がユーザーに、タ スクが開始しなかったことを示す通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskOverdueCondition

説明

タスクの終了日の何日後に、IBM Marketing Operations がユーザーに、タ スクが終了しなかったことを示す通知を送信するかを定義します。 注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyProjectAlarmMonitorTaskScheduledMilestoneCondition

説明

マイルストーン・タスクの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations が通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | projectRequest

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operationsにおけるプロジェクト要求ア ラームについての情報を指定します。

notifyRequestAlarmMonitorLateCondition

説明

要求が遅れているという通知を IBM Marketing Operations が送信する日 数を定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyRequestAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

要求の終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了 通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | program

このカテゴリーのプロパティーは、プログラム通知スケジュールのオプションを指定します。

notifyProgramAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

プログラムの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザー に開始通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

notifyProgramAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

プログラムの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザー に終了通知を送信するかを定義します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | marketingObject

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operationsにおけるマーケティング・オ ブジェクト・アラームについての情報を指定します。

notifyComponentAlarmMonitorScheduledStartCondition

説明

マーケティング・オブジェクトの開始日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに開始通知を送信するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信し ません。

デフォルト値

1 (日)

notifyComponentAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

マーケティング・オブジェクトの終了日の何日前に、 IBM Marketing Operations がユーザーに終了通知を送信するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信し ません。

デフォルト値

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | approval

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operationsにおける承認アラームについ ての情報を指定します。

notifyApprovalAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて承認アラーム・モニターが処 理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。デフォルトを削除し、この値をブランクのままにする と、モニターは、作成された直後に開始します。

注:最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時 間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ 処理のロードを分散します。

デフォルト値

9:00 pm

notifyApprovalAlarmMonitorPollPeriod

説明

承認アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープするおお よその時間(秒)を指定します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyApprovalAlarmMonitorLateCondition

説明

承認の開始日の何日後に、システムがユーザーに承認が遅れていることを通 知し始めるかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

3 (日)

notifyApprovalAlarmMonitorScheduledEndCondition

説明

承認の終了日の何日前に、システムが終了通知をユーザーに送信し始めるか を指定します。 注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信しません。

デフォルト値

1 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | asset

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operations における資産アラームについての情報を指定します。

notifyAssetAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて資産アラーム・モニターが処 理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。デフォルトを削除し、この値をブランクのままにする と、モニターは、作成された直後に開始します。

注:最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク時 間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、データ 処理のロードを分散します。

デフォルト値

11:00 pm

notifyAssetAlarmMonitorPollPeriod

説明

資産アラーム・モニターがポーリングとポーリングの間にスリープする時間 (秒)を指定します。

デフォルト値

ブランク (60 秒)

notifyAssetAlarmMonitorExpirationCondition

説明

資産が期限切れになる何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに 対して資産がもうすぐ期限切れになることを通知するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations は有効期限をチェックしません。

デフォルト値

5 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | Notifications | invoice

これらのプロパティーは、IBM Marketing Operationsにおける請求書アラームにつ いての情報を指定します。

notifyInvoiceAlarmMonitorStartTime

説明

IBM Marketing Operations の始動後、初めて請求書アラーム・モニターが 処理を開始する時刻を指定します。値の形式は、現行ロケールの java.text.DateFormat クラスのショート・バージョンに従ってください。 例えば、米国英語ロケールの場合、有効なストリングとしては 11:59 pm な どが考えられます。デフォルトを削除し、値をブランクのままにすると、モ ニターは、作成された直後に開始します。

注: 最良の結果を得るためには、アラーム・モニターの開始をオフピーク 時間帯にし、それぞれのモニターの開始時刻をずらすように構成して、デー タ処理のロードを分散します。

デフォルト値

9:00 pm

notifyInvoiceAlarmMonitorDueCondition

説明

期日の何日前に、IBM Marketing Operations がユーザーに対して請求書の 期日が近づいていることを通知するかを指定します。

注: この値が -1 の場合、Marketing Operations はこれらの通知を送信し ません。

デフォルト値

5 (日)

Marketing Operations | umoConfiguration | WorkflowService

10.0.0.2

このカテゴリーのプロパティーは、IBM Marketing Operations と IBM Workflow Service が統合されている場合の、これらの製品間の認証とデータ 交換を制御します。

isWfIntegrationEnabled

説明

IBM Marketing Operations と IBM Workflow Service 間の統合を有効に します。True に設定すると統合が有効になります。

有効な値

True | False

デフォルト値

False

wfServiceUrl

説明

wfServiceUrl は、IBM Marketing Operations が IBM Workflow Service にアクセスできる URL を示します。

非実稼働インスタンスの場合は、https://jd-pilot-

wf.ibmmarketingcloud.com/wf という URL を使用します。

実稼働インスタンスの場合は、https://wf.ibmmarketingcloud.com/wf という URL を使用します。

デフォルト値

なし

taskUpdateAPI

説明

情報が必要

デフォルト値

/api/v1/task

executeBPMNProcessAPI

説明

情報が必要

デフォルト値

/api/v1/process

encryptAuthenticationAPI

説明

情報が必要

デフォルト値

/tokens/encrypttoken

workItemPolIAPI

説明

情報が必要

デフォルト値

/api/v1/workItem

IBM 技術サポートへのお問い合わせの前に

資料を調べても解決できない問題に遭遇した場合、貴社の指定の窓口担当者は IBM 技術サポートとの通話を記録することができます。問題を効率的かつ正しく解決す るために、以下のガイドラインを使用してください。

貴社の指定の窓口担当者でない方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

注: 技術サポートは、API スクリプトの記述も作成も行いません。 API オファリン グの実装で支援が必要な場合は、IBM 専門サービスにお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートへのお問い合わせの前に、以下の情報をご用意ください。

- 問題の性質に関する簡単な説明。
- 問題の発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細
- 問題を再現するための詳細な手順
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデー タ・ファイル
- 製品およびシステム環境に関する情報 (この情報は「システム情報」の説明に従って取得できます)。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、お客様の環境に関する情報の提供をお願いすることがあります。

問題がログインの妨げになっていない場合、この情報の多くは「バージョン情報」 ページから得られます。このページでは、インストール済みの IBM アプリケーシ ョンに関する情報が提供されています。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を 選択します。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合、 version.txt フ ァイルをご確認ください。このファイルはアプリケーションのインストール・ディ レクトリーの下にあります。

IBM 技術サポートの連絡先情報

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、IBM 製品技術サポート Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参 照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使用してログインする必要が あります。このアカウントは IBM カスタマー番号とリンクしていなければなりま せん。アカウントを IBM カスタマー番号に関連付ける方法については、サポート・ポータルの「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合 があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービス に言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能 であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を 侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用す ることができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの 評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を 保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実 施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わ せは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およ びその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供 し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべ ての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によって は、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を 受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的 に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随 時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を 行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜の ため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありま せん。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではあり ません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプロ グラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の 相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする 方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation B1WA LKG1 550 King Street Littleton, MA 01460-1250 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができま すが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、 IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれ と同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定された ものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値 が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一 部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があ ります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要がありま す。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公 に利用可能なソースから入手したものです。 IBM は、それらの製品のテストは行 っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の 要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの 製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回 される場合があり、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行 価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。よ り具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品 などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであ り、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎませ ん。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を 例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されていま す。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラット フォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプ リケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式 においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを 経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、 利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。 これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態で提供されるも のであり、いかなる保証も提供されません。 IBM は、お客様の当該サンプル・プ ログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示さ れない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、 それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リ ストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよびご利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」) では、製品の使用に関する情報の収集、エン ド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のた めに、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。 Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピ ューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。 多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご 使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類する テクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体 的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、 お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれ のお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie お よび持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無 効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはでき ません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令 等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie および さまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能 を提供する場合、 お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイ ドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同 意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBMの使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関す る方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件 (例えば、プライバシ ー・ポリシー) への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧 者のコンピューターに、 Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置 することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明する こと、および(3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイ トへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置す る前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、 IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/) の『クッキー、ウェブ・ビーコ ン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan